

Evolution of the human and the space

ライトコード3

フェアリーとドラゴンのコード



フェアリーとドラゴンのコード 目次

- 第1章 フェアリー達の羽ーフェアリー・コード
- 第2章 デバインマスターの世界
- 第3章 子供の心を癒すピーターパンの船
- 第4章 ドラゴンの聖地とドラゴン・コード
- 第5章 シャンバラのドラゴン
- 第6章 生まれ変わるフェアリーの星
- 第7章 脳神経を活性化するアンドロメダ・コード
- 第8章 ドラゴンによるカルマ浄化

作者 瀬戸武志&宇宙の光

アセンションブック <https://www.k-suai.com/>

宇宙の光公式 HP <http://hikari1.com/>

アセンション評議会 <http://s-sun1.com>

アメブロ光の世界へ <http://ameblo.jp/e-stone1/>

Eメール TAKESHI yume34@k-suai.com

イラスト

えんじえる (佐藤弘之)

アメブロ <http://ameblo.jp/angel-art2010/>

第1章 フェアリー達の羽ーフェアリー・コード

PART1 フェアリーの女王様

さて2014年のアチューメントも最後の日を迎える29日

この時美奈さんで行っていたのは、大天使チャミエルのアチューメントです。

大天使チャミエルは、フェアリーやユニコーン、精霊たちを守護する大天使です。

彼女の神殿には、とてもかわいいフェアリー達もたくさんいます。

大天使チャミエルは、自分のアチューメントが終了すると、ぜひフェアリーの世界に来てほしいと私達に行ってきました。

私達は、美しいフェアリー達の世界にいざなわれることとなりました。

私達が、大天使チャミエルに導かれて入った世界は、フェアリー達の世界です。

フェアリーに案内されて、私達は美しいフェアリーの神殿に入り、フェアリーの女王様とお会いします。

「美しきフェアリーの女王様、私達をお導きいただき大変ありがとうございます。

私達は、よくフェアリーとお会いして私達の活動を手伝っていただいております。

そのことをまず感謝します。」

と私は丁寧に挨拶を行います。

フェアリーの女王様は、アジサイや桜の花びらを思わせるような軽やかで美しいドレスを身にまとっています。

手には美しいクリスタルのワンドを持ち、優しい微笑みを浮かべてくれています。

まるですべての花々の美しさを一つにしたような神々しい女神です。

「TAKESHIさん、感謝するのは私達の方です。

あなたは、多くの星にいる私達の仲間達をたくさん救ってくださいました。

私達に大切なフェアリー達が困っているときも、いつも助けてくださいましたし、新しいフェアリーの種族達も生み出していただきました。

こちらこそ感謝いたします。」

沢山のフェアリー達が、私達の上に舞い上がり美しい花びらをたくさん私達に振りかけてくれます。

心地よい香りが私達を包み、私達のハートが癒されていきます。

「偉大なるフェアリーの女王よ。

ここにいるメンバー達も、皆さんと同じようにフェアリーの心を持つメンバー達です。

私達を祝福して下さって大変ありがとうございます。」

共に来たメンバー達も、うれしそうにお礼を言います。

「TAKESHIさん、私達もいつも皆さんの活動を見守っています。

皆さんが、この地球と宇宙の危機をすくために、新たな人種として進化するための取り組みを始められたと聞いて、私達も大変うれしく思っています。

私達も、その取り組みに協力させていただきたいと思い、大切なものを準備しました。」

そういつて、女王様は私達に、透明感のある美しい羽をくださいました。

PART2 フェアリーのライトコード

その羽はとても軽やかで透明感あり純粋なフェアリーのエネルギーで満ち溢れています。

まさにフェアリーの羽そのものです。

私達のメンバーの背中に付けてもいいくらいに大きくて素晴らしい羽です。

「皆さん、この羽は、フェアリーのライトコードです。

見る人によって異なる姿に見えるかもしれませんが、通常はフェアリーの羽として見えることと思います。

フェアリー達の羽は、このライトコードが具現化したものです。

このフェアリーのライトコードというのは、これからの未来においてとても大切な役目を果たします。

フェアリー達の基本的な役割というのは、植物達を育てることですが、皆さんが生み出す未来の地球には、今以上にたくさんの種類の花や生物が存在する事となります。

その中には、動物や魚、鳥、叡智ある生命体も含まれますが、これから生まれる生命達は今以上に高度な遺伝子を持ち、新たな進化を遂げるものと思いますので、彼らをしっかりとサポートしていく事が必要となります。

更に、皆さん達が、シリウス星やアンドロメダ座などから、いくつもの優秀な遺伝子を持ち込み生み出されたように、これから多くの星との関わりの中で、新たな遺伝子の組み合わせにより、叡智を持った種族が生まれてくる可能性もあります。

私達、そしてこのフェアリーのライトコードを活性化した人々は、その事をサポートしていく事となります。このフェアリーの世界には、人類は存在していませんが、皆さんのように、素晴らしい魂やスピリットを持つ人達は这个世界に来て、私達と共に働くことができます。

このフェアリーのライトコードは、皆さんの心の中にあるフェアリー性を目覚めさせるものなのです。」

「女王よ、素晴らしいフェアリーのライトコードをいただきありがとうございます。

私達の中にも、沢山のフェアリーの心を持ったメンバー達がいます。

私もそうですが、彼女達は、花々と動物達をこよなく愛し、植物や動物をも盛るために活動しています。」

「TAKESHI さん、そして皆さん、本当にありがとうございます。

そのような、天使やフェアリーの資質を持つ人達を、私は大変深く愛しています。

そのような人達が、この羽を使う事によって、さらにフェアリーとしての能力と愛が高まることと思います。そしてその魂の純粋さゆえに、私達と共に、この世界で活躍してくださることでしょう。

私達からも、そのような方は是非、この世界にご招待したいと思います。」

「フェアリーの女王よ、もう少しこのフェアリーの羽の事について教えてください。」

「わかりました。フェアリーの羽について、もう少しお話しいたしましょう。

このフェアリーの羽は、人の中にあるフェアリーの資質を更に高めてあげることもできます。

また、この羽を遺伝子の中に組み込むことで、皆さんのスピリットの中にフェアリーの特質が新たに生まれ

てきます。

その特質とは、植物や動物達を育てたり守護したりするときにとっても必要な能力です。

たとえば、植物や動物達の意識と共鳴し、彼らの意思しているものを理解したり彼らの求めている事や彼らが皆さんにもたらす恩恵などについても理解することができるようになります。

植物や動物は、皆さんの心を癒したり感情を穏やかにする能力を持っています。

皆さんが、彼らとさらに深いコミュニケーションを持つことができれば、彼らの能力を更に有効に使用することができるようになるでしょう。

それは、一人の人に対して、というよりも多くの人に対して素晴らしい恩恵を与えることとなることでしょう。

そして、このフェアリー・コードがより活性化してくることで、地球などの惑星の意識や愛と共鳴することもできるようになります。

皆さんは、母なる地球の声を聴き、地球と深い共感を持って生きることとなります。

皆さんは、地球の偉大なる母性を体験し、その母性によって育てられることでしょう。

皆さんを通して、その母性は、さらに多くの人々や動物達にも伝わっていく事でしょう。

あなたは、この地球の進化と共に歩み、地球の偉大なる光を伝えるメッセンジャーとなることもできます。

また、地球の意思を分かち合い、新たな生命達の創造のプロセスに参加することとなります。」

私は、女王の話を聞きながら、フェアリー達の存在の素晴らしさについて感じています。

フェアリー・コードは、私達を、素晴らしいフェアリーへと変えてくれることでしょう。

「女王よ、ありがとうございます。

私達も、フェアリーの羽をしっかりと活用して、私達の中にあるフェアリー性を高めて、動植物や他の生命に対する愛と守護、育成の力を高めていきたいと思えます。」

「TAKESHI さん、ありがとうございます。

そしてこのことを覚えておいてください。

この宇宙では、生命エネルギーは、様々な形に変容しながら大いなる循環を作り出します。

あなたは昨日、美しい花であったかもしれません。

そして明日は、大空に舞い踊る鳥になるのかもしれません。

すべてはエネルギーの循環の中で一つにつながっていますので、あなたが守護し育てる物は、あなた自身でもあるのです。」

私は、女王の言葉に深く胸を射抜かれた感じです。

「それでは、皆さんにこのフェアリーの羽をつけて差し上げましょう」

女王は、私達に近寄ると、メンバー一人一人にフェアリーの羽をつけてくださいます。

PART3 1万年後のフェアリー達

私達は、フェアリーの羽をもらおうと、これから生まれる地球の事を考えています。

「女王よ、1万年後にも、このフェアリーの世界はあるのですか、どのようになっているか教えてください。」

「そうですね、そこはあなた方とアランハイムのフェアリー達が育てたフェアリーワールドになっていますよ。

ぜひ行ってみてください。」

私達は、フェニックス号に乗って未来のフェアリーワールドに行く事にしました。

この世界は、私がギリシア旅行をした時に、ある島に会った古い神殿に封印されていた特殊なフェアリーを助け出したことがあり、そのフェアリー達を中心として、地球の別次元として作られているフェアリーの世界です。

この世界に入ると、とても美しい世界が見えたようです。

美奈さんがその光景に見とれて独り言のように話しています。

「とてもきれいな世界。

かわいいお家や美しい花々がたくさん咲いていますよ。

とても懐かしい感じがする世界。」

彼女が、そのように感じるのも無理はないのです。

この世界は、現在の地球の美しい所ばかりを選んで作られた世界なので、私達の故郷のようでもあります。美しい花々やかわいいフェアリー達の家、沢山のクリスタルが果実のように実っている木もあります。しばらく歩くと美しい滝にたくさんの虹が輝いています。

私達はやがておとぎ話に出てくるようなフェアリーのお城につきました。

お城の中には、姿が異なるフェアリー達がたくさんいます。

私は、アランハイムのフェアリーを呼び出しますが出てきません。

もしかしたら、1万年の間にほかの世界に逝ってしまったかもしれません。

アランハイムの代わりに、このお城の女王様のような方が、私達を出迎えてくれます。

「初めまして、フェアリーの女王よ、

私達は、21世紀に時代から、1万年後のフェアリーワールドがどのようにになっているか見に来ました。」

「TAKESHI さんですね、皆さんの事は、私達はよく知っています。

この世界をアランハイムのフェアリー達と共に創ってくださった方たちですね。

あなた方が来てくださったことを、私達はとてもうれしく思います。」

女王の言葉に、お城中のフェアリー達が、楽しそうに集まってきます。

「女王よ、私達がまだ見た事も無いフェアリー達もいるようですが、1万年の間に皆さん進化したのですね。私達にご紹介いただけませんか。」

「もちろんです。

皆さんにご紹介されることをフェアリー達も喜んでいきますよ。」

女神達が、フェアリーの種族ごとに紹介してくれます。

「通常のフェアリーはご存知ですね、彼女達は、羽が細く植物達の育成を手助けしています。

そしてこのエプロンをした猫のような姿をしたフェアリー達は、フェアリーキャットといいます。

猫みtainな姿で羽も丸く、植物達に明るい太陽の光や喜びの光をもたらしてくれます。

暇な時は、いつも、植物達と一緒に日に当たって寝転がっていますよ。

そしてこちらは、フェアリーの中でも素敵な紳士です。

彼らの役目は、小さな虫たちの世話をして、虫と植物の良好な関係を作ることが目的です。

彼らは、どのような虫や蜂類などにも負けないくらい早く飛びます。

そして、太陽や生命の光をフェアリーワールドの中に作り出したり様々な問題が起きたときにすぐに対応してくれるので、仲間からはとても頼りにされています。」

私もこのようなフェアリーは初めて見ました。

「TAKESHI さんが生み出してくれたフェアリーエンジェル達の種族もたくさん増えていますよ。

彼女たちは、植物の育成にはあまりかかわらず、星を創る仕事や叡智ある存在達を教育したり守護したりする仕事をしています。

彼女たちのおかげで、このフェアリーワールドは、とても愛に満ち溢れているのです。」

彼女が、フェアリーエンジェルの話をしていると、高い空の上から、優しい光が降り注いでくれました。

「フェアリー・オーロラも、皆さんに会いに来てくれたようです。」

私達の目の前に、とても大きく蝶のようにカラフルな羽を持ったフェアリーが下りてきました。

フェアリーというよりは、羽を持った偉大な女神、という感じです。

彼女は、私達の前に立つと、少し身をかがめて挨拶をします。

「彼女は、私達の世界へととても美しい生命の光を降ろしてくれる役割です。

彼女によって導かれた光によって、私達はこの世界を新たに成長させていく事ができるのです。」

私は、女王に気になっていたことを聞きます。

「偉大なる女王よ、教えていただきたいのですが、アランハイムのフェアリー達や私達が生み出した新種族達は、いったいどうなったのですか、ここには姿が見えないようですが？」

「TAKESHI さん、みんなここにいますよ、

アランハイムのフェアリー達は、あなたが生み出した新種族と一つになって新たな種族をたくさん生み出しました。

今ご紹介したフェアリー達も全て、アランハイムのフェアリー達とあなたが生み出した種族が元となって産み出された種族です。

フェアリーキャットは、アラルジーネの子孫ですし紳士のようなフェアリーは、アポロジーネの子孫ですよ。

そして、オーロラは天使マリナエルの光の中で生まれたし、私は皆さんの遺伝子を合わせて作られた天使サリナエルとアランハイムの間に生まれましたので、私の中には皆さんの遺伝子も入っているのですよ」

女王は、笑いながら大きな羽をバタバタと羽ばたかせています。

「皆さんとても素敵な種族にどんどん進化して楽しんでいるんですよ。

あなたが作った世界は、1 万年後の世界でも変わらず素晴らしい輝きを放ち続けています。」

私は女王の言葉にとてうれしくなりました。

私達が作った世界が変わりなく存在し進化し続けている。

メンバー達も、楽しそうにフェアリー達と遊んでいます。

第2章 デバインマスターの世界

PART1 マルチバース（多次元宇宙）を創造する創造主エンソフのグループ

私達が、フェアリー・コードをもらった日の夜は、今年最後ということで夜のメンバー達が集まります。

葵さんと遥さん、そして京子さんです

今夜は、1年の疲れを取ろうということで、まずフェアリー達の世界に行って、フェアリー達からフェアリーのライトコードを受け取ります。

とてもふわふわして気持ちがよいエネルギーです。

その後私達は、フェアリーの癒しの場所へと案内してもらい、そこでゆっくりと癒しのエネルギーを楽しみます。

そして次に、今年も最後ですので、この多次元宇宙を創造する偉大なるマスター達に会いに行くために、光の世界へ登って行きました。

そこは、マルチバースと呼ばれる多次元宇宙を創造するマスター達の世界です。

まず中央にいるのは創造主エンソフと呼ばれる創造主です。

彼はこの宇宙を創造する指揮官のようなもので、宇宙の運営に深く携わります。

私もよく、自分自身の判断で物事を決められないときは、創造主エンソフとよく相談します。

様々な問題に対して、私が行おうとする解決策が妥当なものであるか、創造主エンソフの判断を仰ぐ時があります。

それはこの宇宙はすべて創造主エンソフの計画によって動いていますので、私の行動が創造主エンソフの計画を邪魔しないかどうか尋ねるのです。

また私達の行動も全て創造主エンソフの計画の一部であることが多いので、その計画の目的や進め方を、創造主エンソフと協議したりします。

創造主エンソフのそばには、宇宙を創造する5人組がいます。

彼らは、創造主エンソフの指示の元に、この宇宙を具体的に創造していく職人のような存在です。

どうも一人一人専門があるようですが、私もまだよくはわかりません。

たとえば星を創造するマスターや動植物を創るマスター、宇宙船などを創るマスターなどに分かれているようです。

メンバーの中には、大きな羽を持ったマスターもいます。

彼らはウイングと、私達が呼んでいるマスター達で、天使達の元となっている存在です。

彼らが次元を下っていくときに、大天使や天使となっていくようですが、全ての天使達が、ウイングのエネルギーを受け継いで存在しているようです。

ウイング達は、ミカエルやラファエルといった呼び方はされていません。

全ての大天使達の特質を、一人一人のウイングは持ち合わせているようです。

彼らは、創造主エンソフの指示の元に宇宙の運営や叡智ある存在達の育成を行うことが役目です。

次に、私達にはなじみの深い3人組がいます。

太陽神アメンラーと愛の女神ラメール、そして大地のマスターの3人組です。

彼ら一人一人の能力と力は、通常のマスターとは比べ物にならないほど強いようですが、この世界においては、この3人が、宇宙の創造の原理となっているようです。

愛はすべてを生み出し、結合させ新たなものに変容させていきます。

太陽の光は生命を育て進化させますし、大地のマスターは創造に安定感と基盤を与えます。

この3人が協力して動くことにより、アメンラー達による創造がうまく行くのです。

そして、皆さんにはあまり知られていないのですが、超大物マスターがもう一人います。

それは「ワン」と呼んでいるマスターで、アメンラーが創造する宇宙の基盤を創り出す存在です。

それは宇宙の基礎となる時間と空間を作り出すためのマスターです。

この宇宙は、まず空間と時間が作り出されなければなりません。

そこに物質化のエネルギーが流れ込んで、宇宙が動き始めるのです。

マスターワンは、宇宙の基礎となる空間と時を創ります。

そこに創造主エンソフと宇宙を創造するマスター達が、具体的に宇宙を創造していくのです。

その時必要となるのが、愛の女神がもたらす愛とアメンラーによって生み出される光。

そして大地のマスターが、安定と基盤を創りだします。

それはいくつもの次元と世界にわたり、神々の創造を支えます。

彼らによって、宇宙が創造され、生命が生み出されてくるとウイング達が率いる天使達はその育成と指導に当たるために、次元を降下していきます。

天使達によって、生命達は見守られ多種多様な生命や人種へと進化していくのです。

PART2 多次元宇宙をこえて、デバインマスター

私達は、創造主エンソフの世界を超えてさらに次元を上がっていきます。

創造主エンソフ達の世界は、私達がマルチバースと呼んでいる多次元宇宙を創造するマスター達です。

マルチバースとはいくつものユニバース（単一宇宙）が集まった宇宙で、宇宙としては最大の単位となります。

私達が住んでいる世界は、マルチバースの中に複数存在する単一の宇宙（ユニバース）の中にある天の川銀河ということになります。

しかしこのマルチバースの先がまだあることを私達は知りました。

いくつものマルチバースが集まってできる集合体を統治する世界が存在するのです。

それを、スーパーマルチバースとでも呼ぶのでしょうか、そのマルチバースがたくさん集まっている世界であるスーパーマルチバースを創造するのが、デバインマスターの評議会なのです。

私達は、会議室のような広い部屋に入ります。

そこに7~8名のマスターが、椅子に座っているような姿で見えます。

勿論、この世界に来て会議室と椅子に座ったマスターというのも変な話ですが、彼らは、私達にわかりやすい姿で現れますので、私達がイメージしやすい姿を取っているのだと思います。

私が、彼らに向かって本当の姿を見せてくださいとお願いすると、会議室もマスターもすべて消え、幾重にも折り重なる光だけが存在する世界となりました。

彼らの本質は、まさに光そのものなのです。

私は、彼らに尋ねました。

「偉大なる創造主よ。皆さんはここで何をなさっているか、教えてくださいませんか。」

創造主の方たちは、また元の姿に戻るとにこやかに答えます。

「私達はここで光を時と共に織り込んでいます。

その光は、星となり、銀河となり、宇宙となるのです。

光に形を与えることで、空間が生れます。

それは次元といってもよいでしょう。

そしてその空間に時を織り込むことで、その空間は生命が宿る世界となるのです。

そして世界は広がっていきます。

生命が息づくことができる世界を創ることが、私達の楽しみです。」

ここにいらっしゃる存在は、少しずつ役目が違うようで、私は、詳しい話をお聞きすることにしました。

以下は、私のチャネリングによる情報です。

TAKESHI さん、皆さん、お会いできて光栄です。

この世界は、通常物理世界にいる人達が、たとえスピリットの形であっても入ることは難しい世界です。

この世界は、皆さんが、創造する宇宙という概念をはるかに超えて存在しています。

皆さんは、TAKESHI さんの光に守られてこの世界に入ってきているのです。

TAKESHI さんのスピリットは、かつてこの世界に存在していたスピリットの一人です。

私達は、彼がこの世界を出て、地球に向かうということを聞いた時にとても驚きました。

彼はこの世界で私達と共に宇宙の創造を行っていたスピリットでしたが、物質世界の果てを見たい、そしてその果てから、再度宇宙を創造してみたいということで、幾多もの次元を下り地球へと降りて行ったのです。しかし、その過程で、彼は、自分自身の目覚めがきちんと行われ、再び、もとの世界に帰ってくるができるように、各世界を下っていく時に、その次元のマスター達と周到的な話をして準備を行っていました。

彼はやがて自分自身が、記憶をすべて失ったところから、創造主エンソフ達の世界やデバインの世界まで戻ることを可能とするための仕組みを作り上げていました。

そしてあなた方と共に、この世界に戻ってきたのです。

私達が行っていることは、おそらく皆さんの常識を超えていることでしょう。

しかしこのように考えください。

日本では、昔から、縦糸と横糸を組み合わせて美しい布を織り着物などを創る風習がありましたね。

織られた布は美しい模様が施されていますが、私達も同じように、光を織り込んで美しい宇宙を作り上げて

いるのです。

様々な特質を持った光が存在していますが、その光の組み合わせにより5大元素が生まれ、またそれらの組み合わせにより星や樹木、海などが織りなされていくのです。

皆さん自身も幾多もの光によって織りなされています。

その光が、さらに集まり質量を持つことで物質的な肉体を構成しているのですが、それらも全て、私達とこの宇宙の法則によって生み出されているのです。

私達は、それぞれの世界に意思を持つ存在達を生み出しました。

そして意思を持つ存在達が、楽しく豊かに暮らすことで、その世界が多彩な光を輝かせるようになるのです。それはとても美しいものです。

あなた方も、今地球という世界を舞台にして、とても大きな光を放っています。

美しい大輪の花のように、その輝きを満たしています。

皆さんの光は、さらに大きく広がることでしょう。

そして、皆さんの世界をもっと豊かなものにして行ってください。

私達は、デバインマスターから光をいただき、そこで瞑想を始めました。

私のスピリットは、再びこの世界に戻ってこれたことを深く喜んでいます。

そしてこの世界に戻る事で、私がデバインマスターであった頃の記憶と能力を少しばかり思いだし、地球人の進化のために行っている様々な仕事を行う能力を高めてくれるようです。

第3章 子供の心を癒すピーターパンの船

PART1 ピーターパンの船

私が、舞さんとサポートアチューメントの3回目を行っている時に面白いことが起こりました。私達が、光の通路を通って空へとあがっていくと、そこに大きな船が浮かんでいます。船といっても、宇宙船というよりも4階建てくらいの豪華客船といったような感じの船です。

私達は、船に近づき船の一番上にある甲板の方に降り立ちました。するとそこには、一人の女神のような存在が立っています。私と舞さんは女神に挨拶を行い、この船はなんなのかお聞きします。「この船は多くの人々や子供達の魂の救済を行っています。」

私は、尋ねます。「魂の救済を行うということは、災害や病気などで亡くなった人達の魂を救うということですか。」
「いえ、違います。私達は主に傷ついた子供達の魂を癒し救うことを行っています。そして子供達の魂が輝き始めると、大人達の魂もその光を分かち合われて輝き始めるのです。」

私は、女神からこの船の目的についてさらに詳しく話を聞きました。「この船は、地球の子供達の中でも、戦争や事故などにより親を失ったり親からの養育をきちんと受けることができ無い子供達、劣悪な環境の中で貧困と飢えに苦しむ子供達、また親がいても親から愛情を注がれることが少ない子供達を見守っています。子供達には、親の愛情とその肉体と魂がしっかりと育まれる環境が必要なのですが、そのことに恵まれない子供達がとても多いのです。私達は、子供達が眠りについた時、子供達の魂をこの船にご招待します。ここには、親代わりの女神達や天使達がたくさんいて、子供の魂と共に遊んだり癒したりしています。」

私達は船の中を案内してもらいます。中には、階ごとに大きな部屋がたくさんあり、それぞれの機能を持っているようです。一つの部屋に私達は入ります。「この部屋には、沢山の体に良い食べ物があります。子供達は、ここにきて好きな食べ物をたくさん食べる事ができます。勿論物質的なものではないのですが、そのエネルギーは、子供達の心と体を癒し生育させる事に役に立ちます。」私達が見ていると、沢山の子供達がこの部屋にやってきて、大好きなお菓子や果物をうれしそうに食べています。現実生活では、おそらく飢えと貧困の中で、十分な食事をとる事ができないのでしょう、彼らの顔が至福感で満たされています。

私達が次の部屋に入ると、沢山の女神やフェアリーの姿をした存在達が子供と遊んだり、遊び疲れた子供達を抱きかかえて頭を撫でてあげたりしています。

この部屋は、遊ぶ事を許されていない子供達、心も体もつかれきって自分の人生を楽しむ事も夢を見る事もできなくなった子供達、親の愛情を受け取る事ができない子供達がたくさん集まっています。

子供達は、様々な遊具で遊んだり、女神達とおしゃべりしたり、楽しい時間を過ごしているようです。

「子供達は、夜になるとこの船に遊びに来ます。

彼らの魂は、現実生活の中で深い傷を負っていますので、その傷を癒さなければ、彼らは自分の人生を楽しんで生きることが困難になるでしょう。

そしてその心の傷は、魂に刻まれる事によって、今世だけでなくその後の人生やスピリット自身にも大きな影響を与えてしまいます。

地球は今、非常に大切な時期を迎えています。

これからの地球を支える子供達を癒し救うことが、私達はとても重要なことだと考えています。」

私は彼女の言葉にとっても深い感銘を受けます。

私達も、世界各地で起こる子供に対する暴力や愛情不足による子供達の心の苦しみを感じて涙することがあるからです。

私達は、女神と共に、船の司令室に入ります。

そこには数名のマスターと女性達が働いていますが、私達の姿を見ると、皆さんにこやかにほほ笑んでくれます。

とても優しく穏やかなエネルギーがこの船の中に満ちています。

私はこの船の事を「ピーターパンの船」と呼ぶことにしました。

PART2 地球の人々を癒し見守るマスター達

私は、船の司令官らしき人に挨拶を行い尋ねます。

「皆さんの偉大な活動に、私達は深く感謝します。

私達も子供達が苦しみや悲しみを持って生きることをご大変危惧しておりましたが、皆さんのような方たちがいてくださって大変うれしく思います。

ところで、このグループは、どこかの星に属しているのですか。」

「TAKESHI さん、初めまして、

まず皆さんがこの地球と宇宙で行っている事も私達はよく知っていますし、とても興味を持って見ております。

私達こそ、皆さんの活動に深く感謝しています。

私達の活動は、特定の星やグループに属するものではありません。

いくつもの星やグループの中から、私達の活動に賛同してくれるマスターやメンバー達が集まって、このグループは構成されています。

私達はこの船を使って活動していますが、このような船はまだ何隻もありますし、この船とは異なる方法で活動しているメンバー達もたくさんいます。

それぞれが、地球の人々にたいして最善と思える方法を話し合い、その計画を立てて活動を行っています。」

私は、彼の話聞きながらアシュタールの存在が感じられました。

私はアシュタールの代表的なメンバーの一人であるミサンガを呼び出します。

ミサンガは、背が高く気品ある姿で、私達の前に現れます。

私は彼に尋ねます。

「アシュタールのミサンガよ、お久しぶりです。

あなたは、この活動の事について知っていますか、アシュタールとも深い関係があるのではありませんか。」

ミサンガは、船長やそこにいるメンバー達に挨拶を交わしています。

「TAKESHI さん、もちろんよく知っています。

彼らのグループは、アシュタールや宇宙評議会からも承認を受けて活動しているグループです。

私達のメンバーも、彼らのグループにたくさん参加していますし、多くのサポートを行っています。

しかし彼らは、どのグループからも独立しており、自分たちの判断で行動しています。

彼らの働きはこの宇宙にとってなくてはならないものです。」

アシュタールのミサンガは、私に向かってそのように答えます。

「ありがとう、ミサンガ、良くわかりました。」

「TAKESHI さん、良かったら、後で彼らのセンターへ行ってみてください。」

ミサンガの姿は、スーと消えていきます。

私は司令官にむかって尋ねます。

「あなた方の事が少しわかってきました、ありがとうございます。

それで、この船による活動以外にも、皆さんはどのような活動を行っているのですか。」

「私達の別のグループは、皆さんのように、地球の物理世界で活躍するヒーラーやセラピスト、また保育士や学校の先生たちなど、人々の癒しと教育に関わる人々を支援します。

彼らが、多くの人々に対して誠実にそして素晴らしい仕事ができるように、私達のメンバー達が担当を決めて見守りサポートを行っているのです。」

「ということは、この日本にもたくさんの方が学校の先生やヒーラーなどの仕事をしていますが、その人達を一人一人見守りサポートしているということですか。

「もちろんです、そのような仕事を行っている人達も、過去に苦しい思いをしていますので癒されなければなりません。

また、多くの人達の辛い思いを受け止める必要がありますが、その人自身では抱えきれない事が、沢山起こります。

それらの思いを分かち合い、彼らと共に、その思いを癒してあげる必要があるのです。」

私は、その話を聞いて少し安心しました。

そして、地球の人々が、それだけ多くの宇宙のマスターや女神達から大切にされていることを知らされたのです。

私は、ミサンガの言葉を思いだし、この活動を行っているグループのセンターに行く事にしました。

PART3 子供達に光の遺伝子を！

私達は光の通路を抜けて、彼らのセンターに行く事にしました。

彼らのセンターは、舞さんには、大きなオフィスの中に、沢山のパソコンやモニターが並んでいる部屋のように見えているようです。

モニターには、私達が先ほどいたような船や地球の子供達の様子が映し出され、それを見ながら話しをしている人達がたくさんいます。

おそらく、私達の目には、人の姿で見えているのですが、きっと「スターウォーズ」の映画のように、様々な姿をした宇宙人達が一緒に仕事をしているのだと思います。

私達が行く事が先ほどの船から知らされていたようで、私達がつくとすぐに数名のマスター達が私達の元に集まってきました。

「TAKESHI さん、舞さん、お持ちしておりました。

どうぞこちらにいらっしゃってください。」

私達は、先ほどの部屋を通り抜け、静かで落ち着いた部屋へと案内されました。

私達は、テーブルを囲んで椅子に座ります。

メンバーの一人が、話始めます。

「私達は、船の司令官から説明があったとおり、地球の人々、特に子供達を見守る事を仕事としているグループです。

あなたが、感じられたようにピーターパンの船と呼んで下さって結構です。

本や映画を通して子供達を癒したり希望を与えたりする事も、私達の大切な活動の一つですので、そのような作家や映画を創る人達にも、多くのインスピレーションを与えたりして守護しています。」

「私達を、皆さんの大切なセンターに招いてくださり大変ありがとうございます。

私は、皆さんのような素晴らしい活動をして下さっている人達とお会いできてとてもうれしく思います。それで、私に何かしてもらいたいことがありますか。」

「TAKESHI さん、実はあなたに大切なお願いがあってここに来てもらいました。

皆さんが、この天の川銀河の中で活動していることは、多くの仲間たちから聞いております。

そして、今回、地球人の進化のために、ライトコード・ラボを創られ多くの有益な遺伝子のライトコードを集められ、地球人に適応できるように開発されていることも聞いております。

実は、そのライトコードを私達の活動の中で使用することにより、さらに多くの子供達を癒したり劣悪な環境の中でも生きていく力を持つ子供達を創れないかと考えているのです。

地球には、まだ多くの伝染病もありますし、過酷な環境や貧困の中で生きていかなければならない子供達もたくさんいます。

そのような子供達に「愛の遺伝子」「環境耐性の遺伝子」そして「ドルフィン・コード」などを使用することにより、過酷な環境の中でも、今よりも楽しくそして元気に生きていけるようになるのではないかと考えています。

またこれから子供達を出産していく人達が、このライトコードを持つことで、新たな進化の可能性を秘めた

子供達が地球に生まれてくる可能性も高くなります。

私達が、皆さんと共に活動できれば、この地球と人類は、今まで以上に豊かになると考えています。」

彼の言葉に、他のメンバー達もうなずいています。

彼らは本当に、地球と人類の事を真剣に考えているようです。

私は、ライトコード・ラボの代表であるゴッド・オリジンがこの場所に呼び出します。

そしてオリジンとこの事が可能であるか、打ち合わせを行った後に、再び席に戻り答えます。

「大切なお申し出をいただき大変ありがとうございます。

私達も、ライトコードを開発したもののどのように使用することができるか、ずっと悩んでいました。

皆さんのように、子供達に関わるグループと共同で仕事ができるということは、私達にとってもまた地球の子供達にとっても大切なことです。

皆さんが必要とするライトコードをご提供させていただきます。

このゴッド・オリジンがラボの代表を務めていますので、彼とご相談されて、ライトコードの種類をきめ使用法などの指導をお受けになられてください。」

私がおのうにいうと、メンバー達は椅子から立ち上がり喜んで抱き合っています。

私もその姿を見ると、目に涙が浮かびます。

「TAKESHI さん、本当にありがとうございます。

あなた達が作られた、ライトコードはきっと多くの子供達の命を救い、夢と希望を与えることでしょう。

そして、地球の人達はさらに素晴らしい人種へと生まれ変わることができるようになります。」

私は、ゴッド・オリジンにこのセンターと光の通路を開くようお願いしました。

まずは、ここで働くメンバー達にも、エンジェル・コードやドルフィン・コード、そしてフェアリー・コードなどのライトコードを与える事も大切のようです。

そして、多くのライトコードが、彼らによって、地球の子供達に与えられ、新たな人類の創生に役立っていく事でしょう。

第4章 ドラゴンの聖地とドラゴン・コード

PART1 シールドで封印されたシャンバラ

私達は菜緒さんのアチューメントの時に、今回のライトコード・シリーズの中でも、難関に立ち向かうこととなりました。

それは菜緒さんと、大天使ラファエルのアチューメントを行っていたときの事です。

ラファエルが菜緒さんにとって大切な問題を解決するために行う事があるので来てほしいといわれました。

私達は、いつものように光のトンネルを潜り抜け、ある世界にたどり着きました。

私は、ラファエルにここはどこですか、と聞きました。

「TAKESHI さん、ここはシャンバラです。」

私達はかつてシャンバラに入り、シャンバラの文明の叡智を復興させたことがあります、この場所はその時はまだ閉ざされていて入ることができなかった次元のようです。

しかもこの世界は、何かシールドのような物が張られ、この世界に入る道やこの世界から他の世界へ向かう道が閉ざされています。

私は、このシールドによってシャンバラが閉ざされていることを不思議に思い、だれがこのシールドを張ったのか、この光の道はどこにつながっているのかを知るために、このシールドを張った存在を呼び出しました。

するとそこに現れたのは、一人のマスターです。

「あなたは、誰ですか、私とお会いしたことがありますか？」と私は尋ねます。

「私はオリオン星雲から来ました。もちろん TAKESHI さんともお会いしたことがあります。」

私は、一瞬誰だろうと考えます。

オリオン星雲には4大エレメントの復興の時と見えざる世界の復興の時に数回行っていきますので、きっとその時にお会いしたマスターであることは間違いないようです。

私はいくつか彼に質問する中で、彼がオリオン星雲の4大元素を守りオリオンに平和をもたらす役目をするオリオンの騎士であることがわかりました。

「オリオンの騎士よ、お久しぶりです、

オリオン星雲にも、私達は行かなければならないと思っていましたが、どうやらこの事はオリオン星雲のライトコードとも関係があるようですね。

ここで何が起きたのか、なぜシールドを張り、道を閉ざしているのか教えてください。」

「TAKESHI さん、あなたには本当にお世話になりました。

勿論このことは、オリオン星雲だけでなくアンドロメダ銀河のライトコードにも深く関係しております。

このシールドでとざされた道は、そのライトコードを持つ世界へとつながる道なのです。」

このシールドでとざされた道は、アンドロメダ銀河やオリオン星雲の特別な次元へと続く道であることはわかりましたが、このシャンバラでいったい何が起こったのでしょうか。

私達は、このシールドを一時的に解除して、シャンバラの中に入ることにしました。

私達が入るとそこは美しい自然豊かな世界のように見えますが、ちょっと不思議な気がします。

私がこの世界の本当の姿を見せてくださいとお願いすると、まるで絵に描いた緑の世界が、絵が剥げ落ちるように崩れていきます。

その後に見れたのは、あまりにも無残な荒れはてた世界だったのです。

PART2 遺伝子操作の失敗により破壊された世界

私達はオリオンのマスターにこの世界の事について話を聞きます。

「ここは、地球の中で最も進んだ遺伝子の研究を行っていた場所です。

主にオリオン星雲とアンドロメダ銀河の科学者やマスター達が、光の通路を通して、この場所に来て研究を行っていました。

この研究所では、主に人類と動物達の研究が行われていたのです。

様々な星の遺伝子を持ちより、今まで以上に進化した人類を生み出すことやその人類に役に立つ家畜や動物達を創り出す事が目的でした。

研究は非常にうまく行っており、地球の楽園時代を生きる人々が生まれてきましたが、ある時大変な問題が起こりました。

それは、この地球や銀河のエネルギーを保つために作り出された特別なドラゴンに、ネガティブなエネルギーが入ってしまったのです。

ここで研究されていたドラゴンは、様々な星のドラゴンの遺伝子をもったスーパードラゴンとでも呼ぶべき存在で、体格も能力もパワーも通常のドラゴンとはけた違いに大きいものでした。

このドラゴンは、特殊な能力を使用して、この地球と宇宙全域を駆け巡り、様々な仕事をする予定でした。しかし、このドラゴンを研究していた科学者が、自分の利己的な感情に捕らわれ、このドラゴンを使って地球や天の川銀河、さらにはアンドロメダ銀河やオリオン星雲などを支配しようと考えたのです。

その為にこの科学者は、ドラゴンに入れてはいけないコードを入れたのです。

それは、このドラゴンに破壊力と狂暴性を与えてしまい、科学者のコントロールを振り切って暴れだしてしまっただけです。

シャンバラの人達は、このドラゴンを恐れ逃げ出そうとしましたが、このドラゴンの破壊力によってシャンバラの都市ごと破壊されてしまいました。

オリオンの騎士団は、この科学者の動向を不審に思い、この研究所の近くで見守っていたために、ドラゴンが狂暴化して暴れだしたときに、すぐにこのシャンバラをシールドで封印し、アンドロメダ銀河やオリオン星雲へ向かう道を閉ざしてしまいました。

そして、このドラゴンをなんとか始末しようとしたのですが、私達も多くの犠牲者を出してしまいました。

そしてオリオン騎士団だけの力では抑えることができず、他のマスターや騎士団たちも手を貸して、どうにかこのドラゴンを封印することはできましたが、このドラゴンを創った科学者も死んでしまい、研究所も破壊されたために、このドラゴンを正常なドラゴンに戻すこともできないまま長い年月が経ちました。」
私は、オリオン騎士団からその話を聞いて、この対策をどのようにすべきか思案しました。

PART3 シャンバラのドラゴンに隠された秘密

私はこのドラゴンの対策について、創造主エンソフに尋ねる事にしました。

「偉大なる創造主エンソフよ、このシャンバラやドラゴン達を救うためにいくつかアイデアがあります。まず私達は、過去のシャンバラに戻り、このドラゴンの開発を行っていた科学者の研究を中止させ、この特殊なドラゴンを生み出すことを止めようと思いたしますがいかがですか。」

この宇宙の創造と運営に携わる創造主エンソフには、この宇宙を進化させるために、様々な計画を持っています。

それは一見、不合理なように見えても、後から考えると、起こるべき必要があって起こったのだという事がわかります。

今回のように、過去に起こった事柄を、時間をさかのぼって変更するためには、創造主エンソフの許可が必要なのです。

創造主エンソフは答えます。

「それは認められない。

このドラゴンを生み出す研究は、宇宙にとって必要な研究であり、このドラゴンには大変大きな意味がある。」

「それでは、創造主エンソフよ、このドラゴンの最後のプログラムを行う前の時間帯に入り、ドラゴンが狂暴化することだけを避けようと思いたしますが、それではいかがですか。」

「TAKESHI さん、それも認められません。

ドラゴンがこのような状態になり、シャンバラを破壊した事も意味があります。

皆さんはこの事を通して、遺伝子研究の厳格性を学ばなければならないのです。

またドラゴンも、破壊力と狂暴性を身に付けたらどのような状態になるのかという事も、皆さんは知らなくてはいけないのです。

そしてもう一つ、このドラゴンには、大変な秘密があります。

皆さんは、このドラゴンを使いこなす事で、新たな世界への扉を開くことができるのです。

皆さんの力でドラゴンを救いだし、ライトコードを探し求める皆さんの活動に役に立ててください。」

私は、狂暴なドラゴンを生み出したのも、そしてそのドラゴンを使用して、アンドロメダ銀河やオリオン星雲などに行き、新たなコードを探し出す事も、全てが創造主エンソフの計画の元にあることを知りました。

「創造主エンソフよ、わかりました。

私達は過去を変える事なく、この現実の世界から、封印されたドラゴンに対応することにいたしましょう。それでは、まずこのドラゴンを正常なドラゴンに戻すためにドラゴン・コードを探しだし、そのコードの力でドラゴンを正気に戻すことから始めましょう。」

私は、創造主エンソフに一礼すると、シャンバラから一度現実の世界の中へ戻っていきます。

PART4 ドラゴンの聖地

この日は星のツアーの日です。

私達は、太陽種族の遺伝子をより高度なものにするためにも、またシャンバラのドラゴンを救い出すためにも必要なドラゴン・コードを取りに行く事にしました。

このドラゴン・コードの存在は、前からわかっていたのですが、ようやく取りに行く日がやってきました。

私達は、ドラゴン・コードを受け取るために、私達を導いてくれるマスターを呼び出します。

すると黄金色をした巨大な龍が私達の前に現れます。

さすがの私も、見るからに龍の神様のような巨大で神聖な光を放つ存在が現れてびっくりしています。

私は、黄金のドラゴンに尋ねます。

「偉大なる黄金のドラゴンよ、あなたのような素晴らしい存在が、私達を迎えに来てくれた事に私達は深く感謝します。

どうか、私達をドラゴン・コードの元にお導きください。」

ドラゴンはうなずくと、私達を導くかのように高い次元へと向かいました。

私達も急いでフェニックス号にのって黄金のドラゴンの後を追います。

ドラゴンが導いてくれた場所は、この宇宙を創造する場所である「愛の源の世界」です。

私は、ドラゴン・コードはどこかの星にあるのかと思っていましたが、愛の源に導かれて少し驚いています。

「偉大なる黄金の龍よ、この愛の源の世界の中に、あなた方の世界があるのでしょうか。

もしよろしければ案内してください。」

黄金のドラゴンは身をひるがえすようにして、ある方向へと向かいます。

私達も急いでその方向に向かいますが、さすがにドラゴンは空間を移動するのが早いので見失いそうになります。

やがてドラゴンは、愛の源の世界からおおきな渦巻き状のエネルギーの中に飛び込んでいきます。

私達もフェニックス号でその中に入ると、すごいエネルギーの流れによって、ぐるぐると回転しながら運ばれていきます。

私達の体にも、ゴトゴトとその振動は伝わってきます。

まわりを見ると黄金のドラゴンのほかにも数等のドラゴンが、私達を守るかのように周りをぐるぐる回りながら飛んでいます。

やがて渦巻き状のエネルギーの通路の中を通り抜けると厚いシールドで守られた広大な宇宙空間が見えます。

そのシールドは、ドラゴン達の世界を守っているのでしょうか、他の存在が勝手に入れないようになっています。

ドラゴン達は、特別な龍の紋章によってそのシールドを解除して、私達をその中へと導いていきます。

すると、そこに大きなドラゴン神殿が現れ、私達を驚かせます。

私達が、巨大なドラゴン神殿のなかに入ると、見たことも無い立派なドラゴン達が、私達を見守っています。

神殿の中央には巨大なクラスター状のクリスタルが有ります。

クラスターというよりも山のようなクリスタルがいくつも重なり合っているようです。

大地のパワーを表すようなクリスタルで、いくつもの虹が光輝いています。

黄金のドラゴンが、私達を振り返り言葉をかけてくれました。

「ようこそ、我々の聖地へ来てくださいました。

あなた方を歓迎いたします。」

「偉大なる黄金のドラゴンよ、ここは素晴らしい聖地ですね。

ここにはドラゴンの世界の中でも偉大なドラゴン達が集まっている場所なのでしょうか。」

「もちろんです。その働きによって様々な種類のドラゴンがいますが、そのリーダー達が集いあう場所がここです。」

「それでは黄金のドラゴンよ、私がアシリカントで生み出したドラゴンもここにいるのですか。

光によって新たな次元や世界を産み出す働きをする「光のドラゴン」や宇宙や星々を進化させる「虹のドラゴン」、そしてこの世界に大きな変容をもたらす「ドラゴン・ミスティ」はここにいるのですか。

「もちろんです、彼らも私達の大切な仲間です」

黄金のドラゴンは口笛を吹くようなかん高い声を発します。

すると、神殿の前の入り口から光のドラゴンと虹のドラゴン、そして上から降りてくるようにドラゴン・ミスティが私達の前に現れます。

私は思わずうれしくなって涙目になってしまいます。

彼等とは、突然の別れを余儀なくされたので、もう会えないかもしれないと思っていたのです。

私はさらに黄金のドラゴンに尋ねます。

「このドラゴンの聖地は、黄金のドラゴンが統治しているのですか。

まだほかにもリーダーはいるのですか。」

黄金のドラゴンは、すーとその体を横にひきました。

するとその後ろから銀色に輝く体を持つ巨大なドラゴンが私達の前に姿を現します。

「私達、黄金のドラゴンと白銀のドラゴンは、共に協力し合ってこの聖地を守っています。

私達は、この聖地から多くのドラゴンを生み出し、外の世界に送り出していきます。

そして常に多くのドラゴン達と連絡を取りながらこの宇宙を運営するお手伝いをしています。」

黄金のドラゴンと比べるととても洗練された美しいエネルギーを持っています。

太陽神アメンラーと愛の女神ラメールと同じような関係かもしれません。

黄金と白銀のエネルギーがまじりあってとても美しい世界が生まれている感じがします。

PART5 ドラゴンの種類と役目

私は、彼らにこの世界には、どのようなドラゴンがいるのか教えてもらうことにしました。

「この世界には、皆さんが理解できないほどのドラゴン達の種類が存在しており、ドラゴン達の役目も様々です。

主にドラゴン達は、この宇宙に存在する星や自然、生命達のエネルギーを保持したり運んだりします。彼らは、自分達が何をどのような方法で守護し育てるかということを知っており、その仕事に対して忠実に働いています。

彼らには、余計な感情はありませんが、どの生命にも負けない強い愛と正義があります。

まず大きなドラゴンからいえば、ユニバーサル・ドラゴンもしくはスター・ドラゴンと呼ばれるグループがあります。

彼らは、一つ一つの星や星団を守護するドラゴン達ですが、彼らが大きなグループを創ることによって銀河や星雲が維持され、そこに多くの星々が存在することになります。

次に、自然の生態系をつかさどる植物や動物などの種族の生命を支えるドラゴンや皆さんのような人種を守護するドラゴン達もいます。

彼らは、種族の潜在意識とも深く関わっており、種族の育成を行うだけでなく種族間のエネルギーの調整や浄化を行っています。

また、皆さんのように個人を守護するために現れるドラゴンもいます。

しかし、この個人の守護をするドラゴンは誰にでもついているわけではありません。

その人が、この宇宙や他の種族にとって役に立つ活躍をすることがわかっている場合は、その人のスピリットに寄り添って、その人がしっかりと仕事ができるようにサポートを行うのです。

また、特殊な目的のために生み出されるドラゴンもいます。

それは、あなたが星座の働きを守るために作り出した、ドラゴン騎士団のような存在ですね。

私達は、その役目がこの宇宙にとって有益であると判断した場合には、そこにドラゴンを送り出します。」

PART6 マスタードラゴン・コード

白銀のドラゴンは、私達の方をみて微笑んで言います。

「それでは TAKESHI さん、そろそろドラゴン・コードの話をしませんか。

私達が準備しているドラゴン・コードはマスタードラゴン・コードです。

つまりどの銀河や星雲、あるいは星々に存在しているドラゴン達やどのような働きをしているドラゴン達にも有効な遺伝子コードです。

多くの異なるタイプのドラゴンであっても、ドラゴンとしての神聖な働きを、このコードによって受け取ることができるようになっていきます。

このドラゴン・コードの目的は、空間と次元を超えていく能力と今まで以上に大きなエネルギーを保持するための能力を、様々な種族のドラゴン達にあたえることです。

そしてドラゴン・コードが持つ大切な能力の一つは、保持しているエネルギーをその生命に合わせた適切な

エネルギーに変換して与えることです。

つまり同じエネルギーでも、惑星が必要とするエネルギーと皆さん人間が必要とするエネルギー、そして植物達が必要とするエネルギーでは、エネルギーの質が全く異なります。

ドラゴンは、相手に合わせた形にエネルギーを変換して、相手に与えてあげることができるのです。

このドラゴン・コードは、その能力を持っていないドラゴンにはその能力を与え、すでに持っているドラゴンには、その能力を更に高めてあげることができます。

そして、皆さんがこのドラゴン・コードを身に着けることで、スピリチュアル界のエネルギーを物質世界に降ろしてエネルギーを物質化することも可能となります。

また、エネルギーを特定の目的のために作り出し、それを自由に送ったり相手に渡したりすることもできるようになります。

皆さんが、これから太陽諸族として進化していくためには、今までとは比べ物にならないほど大きなエネルギーを保持し、目的に合わせて変容させて使える能力が必要となりますので、このドラゴン・コードが、必要となってくることでしょう。

また、ドラゴン・コードはドラゴン達の理性そのものでもあります。

ドラゴンとして、正しい道を歩むこと、つまりこの宇宙から預かったエネルギーを正しい形で使用することがドラゴンの理性なのです。

ドラゴンには、不要な感情もエゴも存在しませんので、このドラゴンの理性を保っているドラゴン達は闇に落ちることはありません。

今回のように遺伝子の操作によって生み出されたドラゴンは、ドラゴン・コードを持っていたとしても、ドラゴンの理性と呼ばれる遺伝子コードが抜き取られている可能性がとても大きいのです。

それ故に、このドラゴンを創った科学者の命令に従うように、あらかじめプログラムされてしまい、本来のドラゴンの性格とは異なるドラゴンに成長してしまいました。

しかし、ドラゴンの遺伝子は、皆さんが、コントロールできるほど簡単なものではないのです。

ドラゴンの遺伝子は、この宇宙の中でも最高度の機密で、その中にはこの宇宙の創造に関わる情報や能力が秘められているのです。

ドラゴン・コードは、そのような巨大な能力と知識を持つ複合遺伝子であり、一つ一つの遺伝子がとても巨大で高度な働きを持っています。

そのバランスが、少しでも狂ってしまうととてもドラゴンとしての働きは果たせなくなります。

それだけドラゴン達は、複雑で高次元な存在として生き続けているのです。」

続いて黄金のドラゴンが私に話をします。

「もし、あなたがシャンバラのドラゴンを助けてくださるのならば、ぜひこのドラゴン・コードをシャンバラのドラゴンに持って行ってください。

そしてこれから、あなた方が出会うドラゴン達にも必要とあれば、このコードを使用してあげてください。

このコードは、ドラゴン達が使うことにより、そのドラゴンの能力を最大限に引き上げます。

またドラゴンとしての最高度の叡智と神聖さをもたらすこととなるでしょう。

通常のドラゴンが持つドラゴン遺伝子をはるかに超えた能力がこのドラゴン・コードの中に秘められています。

皆さんも、ダイヤモンドベースの遺伝子構造を身に着けた後に、このドラゴン・コードを身に着けることはできます。

しかしながら、他のコードと比べて、ドラゴン・コードはくらべものにならないほど複雑で巨大です。

不用意にこのコードを用いることはしないでください。

また、このコードを入れるだけの能力や容量がなければ、このコードは、装着することはできません。

ただし、このコードの一部は、皆さん方が、使用することも可能です。

私達は、皆さんがここに来ることを予測してあらかじめ準備してあるコードがあります。

ドラゴン・コードのヒューマン・バージョンと呼ばれている物です。

それは、あなた方が、高次の世界のエネルギーを受け取り保持することができるようにする能力です。

人間として可能なレベルの量のエネルギーを保持し、それを自分自身の生命力や人を癒す力、あるいは自分のスピリチュアルな能力を開くためのエネルギーに変換することもできます。

それもドラゴンの力の一つなのです

今回準備したヒューマン・バージョンであれば、ドラゴン・コードを皆さんの遺伝子の中に入れることはさほど難しくありません。

そうすることで、皆さんは今までよりもさらにパワフルに、そしてさらに能力を高め、現実を生きる力や人を癒す力、自分のスピリチュアルな能力を高める力を、より高い次元で発揮することができます。

それでは、ドラゴン・コードが必要な人はスピリットの中に組み込んでいきましょう。」

私達は、ここで偉大なるドラゴン達によって、人間のために造られたドラゴン・コードをもらいスピリットの中に組み込んでもらうことにしました。

ドラゴン・コードは、通常の機能も素晴らしいのですが、組み込んでもらうときにとても大きなパワーが輝きますので、その時に自分のお願いごとを言うとかないやすくなるようです。

第5章 シャンバラのドラゴン

PART1 遺伝子拘束をされたシャンバラのドラゴン

さて、私達は大切なドラゴン・コードを手に入れるとシャンバラのドラゴンの元に向かいました。先日、話を聞いた中では、瞬く間にシャンバラの街を破壊しつくしたドラゴンなので、どれほど巨大で破壊力があるドラゴンなのか想像もつきません。

ドラゴンの聖地からも、虹のドラゴン、光のドラゴン、そして変容のドラゴン・ミスティも一緒にシャンバラに行ってもらうことにしました。

私は、不安と恐れが入り混じった気持ちのままシャンバラの世界に降りていきました。

そこで、シャンバラのマスター達と合流して、ドラゴンの元に連れて行ってもらうことにしました。

私の気持ちはとても重たいのですが、遺伝子操作によって狂わされたドラゴンの事を考えると、早く助けてあげたいと願わずにはられません。

シャンバラのマスター達が、つれてきてくれた所は荒れはてた荒野です。

そこに巨大なドラゴンが大地にうずくまるようにして眠っています。

その姿を見ると、私は胸が締め付けられるくらい強い悲しみに襲われます。

ドラゴンの姿が、あまりにも悲惨で悲しすぎるのです。

自分の本来の気持ちを失わされ、科学者たちの言いなりになってしまい、挙句の果ては狂暴なドラゴンとして憎まれ、封印のシールドの中に閉じ込められたドラゴン。

本来は、とっても純粋で優しいドラゴンだったに違いないのに、彼を利用しようとする人々の邪悪な思いの中で傷つき倒れてしまったドラゴンの痛みが、私のハートの中に強く伝わってきて涙がこぼれます。

ドラゴンの聖地から、一緒に来てくれたドラゴン達や私達の仲間のドラゴン達が、一斉に飛び立ち、地に伏したドラゴンの周りを取り囲みます。

虹色のドラゴンや光のドラゴン達は、ドラゴン族に伝わるドラゴンの紋章をこのドラゴンに描いていきます。ドラゴンの紋章というのは、私達の言葉でいうと「神聖幾何学」と同じで、特別な作用を持つエネルギーのシステムです。

ドラゴン達が生きている紋章は、大きな光を生み出します。

おそらくシャンバラのドラゴンの体と心とスピリットを癒し、目覚めさせているのでしょう。

紋章は、シャンバラのドラゴンの上で様々な形に姿を変えていきます。

他にも、炎を吹きかけているドラゴンや光を送っているドラゴンもいれば、空中を飛びながら、「ドラゴンの金粉」と呼ばれるドラゴンの生命力の源となる光を、シャンバラのドラゴンの上に降り注いでいるドラゴン達もいます。

そしてドラゴン達と共に、魔法使い達や騎士団そしてマスター達も、シャンバラのドラゴンを遠くから取り

困むようにして神聖幾何学を描き、光を送り続けます。

ドラゴンの姿をよく見ると、首のところに遺伝子チップが刺さっているようです。

私は、宇宙の魔法使いを呼び出して、その遺伝子チップを取ってもらうようにお願いしました。

宇宙の魔法使いが、とても困った顔をして私を見ます。

どうやら、その遺伝子チップは、脳神経の奥にまで入り込んでいるようです。

大天使ラジエル達も集まってきて、脳の手術を行いチップを取り出しました。

私は、宇宙の魔法使いに、この遺伝子チップは、闇に落ちた魔法使い達に使用されていた物と同じものですかと、尋ねました。

「いや TAKESHI さん、これはもっと組織的なグループによるものです。

ドラゴンを操ろうとしたグループは、銀河や星雲を相手にしているとてもおおきなグループだと思います。」

シャンバラのドラゴンは、宇宙のいくつもの星に存在する優秀なドラゴン達の遺伝子を集めて作られた存在なので、多くの星のドラゴン達の叡智と能力を引き次ぐだけでなく、多くのドラゴン達と深い潜在意識で結ばれています。

その為に、通常のドラゴンよりも複雑で高度なシステムを持っているようです。

もしかしたら、このドラゴンを利用することで、他の星々のドラゴン達の意識に介入することも可能なのかも知れません。

もしそのような事が起きたら、この宇宙にとって大変な事になってしまいます。

遺伝子チップが抜きとられた後も、ドラゴンの体に光っている所と光っていない所が見えています。

私は不思議に思い、ゴッド・オリジンにこれはなんなのか尋ねてみました。

「TAKESHI さん、この光っている部分と光っていない部分に関してお伝えしましょう。

これは遺伝子の活性状態を表しているのです。

活性化している遺伝子の場所は輝いているのですが、活性していない遺伝子の場所は暗く見えるのです。

このことはよく覚えていてほしいのですが、これだけ大きな存在になると、通常の方法で捕えてどこかの建物の中に封印することは不可能です。

その為に、「遺伝子の拘束」という方法を使用するのです。

それは、生命を維持するための遺伝子はそのままにしておいて、意識を司ったり行動するために使用される遺伝子を不活性にしてしまうのです。

そのことによって、その生命体は生きていても行動することができず寝たままの状態になってしまいます。

そして、ご覧のように、大地に伏したまま、何百年、あるいは何千年という時間の中を、ただ生きているだけの状態で過ごさなければならないのです。

私は、虹のドラゴンに、ドラゴン・コードを彼のスピリットに埋め込むようお願いしました。

すると意外な言葉が返ってきました。

「TAKESHI さん、私達では、その仕事をきちんと行うことができないのです。あなたが行ってくれませんか。」

「私が行うのですか、これだけ大きなドラゴンに、ライトコードを付けるのは、私には不可能なような気がするのですが・・・」

「TAKESHI さんだからこそできるのです。」

このドラゴンには、ドラゴン・コードを付けるだけでなく、活性化されていない遺伝子を活性化して、そのほかの遺伝子と結び付けていかなければなりません。

そのことは、あなたにしかできないのです。」

そういわれても、私は、人間の遺伝子構造の様子は大体わかりますが、相手がドラゴンとなると……

「TAKESHI さん、お願いします。

あなたはそのために学んできたのではないですか？」

そういわれると、どうしようもない気がします。

PART2 ドラゴンの遺伝子コードの活性

私は、シャンバラのドラゴンの前に立ちました。

周りのドラゴン達が、私の邪魔にならないように、ドラゴンの周りから離れて見守ります。

私は、ドラゴンの遺伝子の構図（マップ）を開きます。

するとカバラの生命の樹の絵のように、いくつもの光る玉とそれをお互いにつないでいる光のラインが見えます。

通常の人間であれば、その光の玉は 8 個～20 個くらいの平面で見えるのですが、このドラゴンはそれが立体的な 3 層構造になっており、その一層の中にもたくさんの遺伝子の玉が見えます。

おそらく全部で 200 個近くの遺伝子の玉がつながりあっているように見えます。

虹のドラゴン達が、ドラゴンの紋章を描いてくれたりしたおかげで、多くの遺伝子が輝き始めています。

私は、シルバードラゴンから受け取ったマスタードラゴン・コードを、遺伝子の構造の中心部に入れ込みます。

マスタードラゴン・コードは、複合遺伝子なので、いくつもの遺伝子がある中に存在し、複合的なシステムとして動いています。

その為に、ドラゴンの遺伝子構造の中心部に入れて、まだ活性化されていない主要な遺伝子を活性化させ、マスタードラゴン・コードとつなげていきます。

ドラゴン・コードと他の遺伝子をつなぐことで、まるでメインスイッチに電源が入ったように、他の遺伝子も次々と光輝きます。

私はこのドラゴンのハートにあたる部分に、私のハートから取り出したオリハルコンの光を入れていきます。オリハルコンとは、創造主の一族だけが持ち得る高度なエネルギー発生装置のようなものです。

そのオリハルコンの光を入れることで、生命力が格段に高まり、光にあふれてきます。

シャンバラのドラゴンが、ようやく目を開け始めました。

私は、ゴールド・ドラゴンやシルバードラゴン達にサポートをもらい、シャンバラのドラゴンにどんどん光を送ります。

ドラゴンの遺伝子が活性化するにつれ、ドラゴンの意識が目覚めてきます。

私達が、シャンバラのドラゴンを目覚めさせる為に、光を送っていると、創造主創造主エンソフが私達の前に降り立ってきました。

創造主エンソフは、私達にお礼を言うとメッセージを伝えてきました。

「このドラゴンを目覚めさせ、正統なるドラゴン・コードを入れて下さって有難うございます。

私達は、このドラゴンの事を大変心配しておりました。

このドラゴンは、新たな地球が生み出されてくるときに、そのエネルギーの母体として使用するために生み出される予定でした。

シャンバラ、レムリア、アトランティスそしてムーの世界を統一して新たな地球を作る予定だったのです。アトランティス、レムリアというのはとても素晴らしい文明だったのですが、その当時の地球で存続させるのは難しい状況を地球は迎えていました。

地球の人々が競争の遺伝子をもったためにお互いを侵略しようとして、争いを始めたからです。

レムリア、シャンバラの時代はまだ良かったのですが、アトランティス時代には、人類が長い時間かけて作り上げた愛の意識や神聖なる叡智が、人々の侵略や争いによって破壊されようとしていました。

私達は、それらの愛と叡智を守るために新しい世界を作る必要があったのです。

私達は新しい世界を創るために、ユニバーサル・ドラゴンや多くの星のドラゴンの遺伝子を組み合わせ、その世界の母体となるドラゴンを作り出そうとしたのです。

しかしながら、その計画を知ったグループによりドラゴンは奪われ、彼らの意図する意識を植え付けられ、彼らがコントロールできるように作り替えられようとしていました。

マインドコントロールされた科学者が、正常な遺伝子構造を狂わせるための遺伝子コードをドラゴンに埋め込んだのです。

このドラゴンはとても複雑な遺伝子から成り立っています。

一つの遺伝子が狂う事により、大きな影響が生れ、制御不能で理性のないドラゴンになってしまったのです。ドラゴンの理性が狂わされて狂暴なドラゴンになってしまいました。

ドラゴンはもともと平和的な存在ですが、このドラゴンがこれ以上の狂暴な行為をしないために、アンドロメダ銀河とオリオン星雲のマスター達によって神経をマヒさせる薬を使って眠らされました。

そして複雑な遺伝子コードを不活性にして、このドラゴンが活動できないようにしたのです。

オリオン星雲とアンドロメダ銀河の騎士団はこのドラゴンを守ろうとして、このドラゴンを手にいれようする人達との間に大きな戦いが起こりました。

もしこのドラゴンが彼らの手に渡ってしまえば、オリオン星雲やアンドロメダ銀河は大きな混乱や破壊を受けることは避けられなかったでしょう。

しかし、皆さんが新たなレムリアやアトランティスを復興させたことにより、新たな地球の次元が存在する意義が生まれてきました。

地球の新たな次元が始まりますが、そのためにシャンバラのドラゴンは目覚めさせられました。

かつて、行えなかった事を、再度実行に移される時のことを考えて、彼はずっと待っていたのです。」

PART3 シャンバラのドラゴンの目覚め

創造主エンソフが、新たな光をドラゴンに注ぎ込むと、ドラゴンが目覚めます。
新しい意識を持って、生まれ変わったような神聖な輝きに満ちてきます。
ドラゴンからのメッセージが伝わってきます。

「皆さんに心から感謝しています。
私は皆さんの力で、新しく生まれ変わりました。
今から皆さんと共に私自身のエネルギーを使って、皆さんの地球が生まれ変わることや新たな次元が生まれ
出ることに関心したいと思っておりますので、必要な時にぜひお呼びください。」

私はドラゴンに向かって尋ねます。
「あなたの名前は何と呼ばれているのですか、そしてあなたの役割はなんですか。」
「私は、新しく生まれ変わりましたので、皆さんがわたしの名前を付けてくださればうれしく思います。
私の役目は、様々な世界へ光の通路を創ることです。
勿論、他のドラゴンと協力して、新たな世界を創造することもできますが、特別な世界へいく道やその世界
と他の世界をつなげていく事が私の役目です。」

私は、シャンバラのドラゴンにお礼を言うと、ドラゴンに「暁のドラゴン」という名前を与えました。
そして、このシャンバラに導いてくれた菜緒さんの名前をかりてナオエルというニックネームをつけること
にしました。

「暁のドラゴンよ、あなたはアンドロメダ銀河やオリオン星雲の遺伝子工学の研究所がある特別な世界が存
在していることをご存知ですね。
私が、先日行った星は、このシャンバラからの通路の先にありました。
その星は、かなり壊滅的なダメージを受けていたのですが、無事復活しました。
そしてその星の地下にあるクリスタル・ドームから、オリオン星雲とアンドロメダ銀河の特別な通路が伸び
ているのですが、その通路は壊れたまま利用できないようです。
あなたはその通路の事を知っていますか。」

「もちろん、知っています。
私とその通路が取れるように修復をしておきますのでお任せください。
そして、素敵な名前を付けてくださって本当にありがとうございます。」

私達は、この暁のドラゴンと仲良くなることで、更なる旅が始まります。
次は、ライトコードを求めて、オリオン星雲とアンドロメダ銀河に旅立ちます。

第6章 生まれ変わるフェアリーの星

PART1 破壊された星

私が、「宇宙の光」のメンバーである奈津子さんと、ライトボディのアチューメントを行っている時、彼女のとても深い悲しみを癒すために、ある星に連れていかれました。

その星に降り立つと深い悲しみが、悲鳴のように押し寄せてきます。

星は、かつては美しい森や海もある自然豊かな星のようでしたが、今では、森も枯れ海も汚されて生きている動物たちもあまりいないようでした。

その星の地表は、いたるところで掘り返され、荒々しい岩盤がむき出しになっています。

そしてそこには、一人のおじいさんのようなマスターが、寂しく佇んでいます。

奈津子さんは、その様子を見て、感情がこみ上げてきたのか、涙が出てきているようでした。

私達は、なぜこのような荒れはてた星になったのか、おじいさんに聞きました。

「この星はかつてとても美しく愛にあふれた星でした。

面倒見の良いフェアリー達が、星の女神と共に、動物や植物達の世話をし、とても楽しく暮らしていたのです。

ところが、この星にほかの星から人々がやってきました。

最初は友好的な関係を保っていたようですが、やがてこの星にある地下資源をめぐって争いになり、この星のフェアリーや動植物たちは、その犠牲となったのです。

自然も破壊され、川も海も汚染されてしまいました。

花も枯れ、新たな生命もそこに育たず、星は荒廃し、星の女神もその力を失ってしまいました。」

そして、おじいさんは、他の星から来た人達によって、森が焼き払われ、逃げ惑う動物達や狂ったように泣き叫ぶフェアリー達の姿を見せてくれました。

それは直視に耐えられないほど悲惨で壮絶な光景です。

他の星から来た人は、大型の機械を使って、星のあちらこちらを掘り返したり、爆弾みたいなものを使って星の地表に大きな穴をあけています。

奈津子さんは、その話を聞いて涙ぐんでいます。

おそらく自分も、その星にいたことを思い出したようです。

私達は、この星の生命達を救い、奈津子さんの悲しみを癒すために、過去の時代に戻ることにしました。

PART2 フェアリー達の星の惨事

星が荒廃する前の時代、そこは、とても美しいフェアリー達の世界です。

星の上空から見ると美しい森やその間を流れていく川、広がる海、全てが輝き、多くの生命達が楽しく生き

ているエネルギーを感じます。

私達は森の中に降り立ち、風にそよぐ木の葉をたくさん蓄えた樹木の間の道を歩みます。美しい花々が私達に微笑みかけ、動物達も樹木の陰から愛らしい姿を現しています。また樹木の間からも、美しい声で鳴く鳥の姿も見えています。奈津子さんの周りには、沢山のフェアリー達も集まってきます。

一人の少し大柄なフェアリーが奈津子さんの前に近づいてきます。どうやら、フェアリー達のリーダーのようですが、奈津子さんのスピリットととても深い関係にあるようです。

「皆さんこんにちは、私達の世界へ来てくださって心から感謝いたします。この星は、フェアリー達が、動物や植物と仲良く暮らすための星です。この星では、全ての生命が、母なる星の意識の元の一つにつながっており、楽しく暮らしています。皆さんはどこからいらしたのですか。」

「初めまして、美しいフェアリーの女神達よ、私達は、地球と呼ばれる星からやってきました。こんなに素晴らしく、また一体感がある星は見たことがありません。皆さんの愛が、星全体にあふれている様子が理解できます。」

私は、先ほど見た荒れはてた星の光景と全く異なる星の姿を見てとても悲しく思います。これほど美しい星が、あのような荒廃した星になってしまう事を止めたいと思わずにはいられません。私は、フェアリーの女神と共に、森の中や川のほとり、そして海の様子も見せてもらいました。全ての場所が、色鮮やかな生命達の輝きで満ちています。しかし、私達が、移動中にこの星になじまない光景を発見しました。

それは星の平地に数隻の宇宙船が着陸しており、そこから大型の車や機械などが降ろされていました。おそらくこの人達が、おじいさんが言っていた他の星から来て、この星を破壊した人達に違いありません。私は、フェアリーに尋ねました。

「あの人達は、もともとこの星の人達ですか？」

何をしようとしているのですか？」

フェアリーの女神はにこにこ笑いながら答えます。

「あの人達は、遠い星から来た人達のようなのです。」

自分達は、美しい花や動物達が、さらに美しく健康で生きるための仕事をしているとっていました。

自分達は、フェアリーの女神達の使いだともっていました。」

私達は、彼らが本当の事を言っていないという事がすぐにわかりましたが、疑うことを知らないフェアリー達は、森の動植物達のために、彼らを受け入れ、彼らに協力しているようです。彼らが、この星の地下資源が目的で、そのためにどのような事が起こるか、全く考えてもいないようです。しかし彼らの様子を見ると、その時期はまもなくやってくるのかもしれない。

「彼らは、この星の生命力を高めて、動物や植物がもっと豊かに育つように、いま調べているみたいです。私達も彼らを、この星のいくつかの場所に案内しました。」

この星がどんなに素晴らしい星になるのか、私達とても楽しみです。」

私達の気持ちは、一気に暗い雲に覆われたような気分です。

私は、おじいさんから聞いた事を話すべきか迷いました。

おそらくその話をフェアリーは信じないかもしれませんが、あるいは、その話を聞いてとても大きなパニックに襲われるかもしれません。

しかし、このままでは、この星が破壊され、フェアリー達の気持ちが踏みにじられる事は目に見えています。

その日の夜になりました。

私は、いつ何が起きてもいいように、フェニックス号を呼び寄せ騎士団を待機させておきます。

そして、フェアリー達に何も告げることができないまま、長い夜が明けました。

朝から外では大きな音がします。

バリバリという樹木を押し倒していく音や、岩や大木を爆弾のようなもので破壊する音です。

彼らが地下資源を採掘するために動き始めたのです。

外では、動物達が逃げまどい植物達は踏みにじられています。

フェアリー達は、彼らに手荒な行動をやめるように訴えていますが、彼らはフェアリー達を追い払うように乱暴なしぐさをしています。

私と奈津子さんは、フェアリー達にすぐにフェニックス号に乗るように伝えましたが、彼らの裏切りの行為に絶望したのかフェアリー達は、泣き叫びながら動こうとはしません。

私は、フェニックス号の騎士団やマスター達に大急ぎでできる限りの動物達やフェアリー達を救出するように命じました。

ケンタウルスやペガサス、ユニコーンそしてわし座の騎士団、羽を持つ新種族の騎士団たちが、次々と森や草原に降り立ち、動物やフェアリー、ホビット達を抱きかかえたり背中に乗せたりしながら運んでいます。鳥たちは、大きな翼を広げて、フェニックス号に吸い込まれるように飛び込んできます。

マスターや魔法使い達は、森の精霊、植物の精霊、風の精霊、大地の精霊、水の精霊などの形無き者たちをフェニックス号の中に呼び込んでいます。

しかし、あのフェアリーは、他の星からやってきた人達に、自分が心を許したために、この大切な星を破壊されてしまうことになった事に対して、絶望的な気持ちになっています。

何度も燃え盛る森の中に飛び込んでいこうとしますが、それを奈津子さんが、フェアリーを抱きかかえるようにして止めています。

魔法使い達によって、最後に星の生命を支えていた星の女神も救出され、私達の救出活動は終わったようです。

フェニックス号の中は、燃え盛る星を窓から見ながら悲鳴を上げたり悲しみの涙を流す者達であふれかえっています。

私は、彼らを前にして言います。

「私達は、未来から皆さんを救うためにやってきました。

確かに、皆さんが愛した美しい星は大きな被害を受けました。

皆さんもそこに残っていたならば、決して無事ではなかったでしょう。

でも、皆さんは無事に救出されました。

皆さんの命がある限り、この星は何度でも再生することができるのです。

もう一度、力を合わせて美しい星を創りませんか。」

フェアリー達は絶望のあまり、首を横に振りながら泣き続けています。

星の女神も、あまりの事に、冷静に物事を考えることもできないようです。

多くの精霊たちも、恐怖で身を震わせ悲しみの涙を流しています。

騎士団も魔法使い達もなすすべがなく、ただ見つめています。

私は、フェニックス号の船長に、先ほどのおじいさんが待つ時代に戻ってくれるようにいました。

あの時代は、すでにフェアリーや精霊たちも存在していませんでしたが、このフェニックス号に乗っているフェアリー達や精霊たち、そして多くの動物達が、あの星に戻っていけば、きっとあの星は再び美しい星に生まれ変わるはずです。

私達は、何度もそのことを体験してきたので、今回も必ず成功すると信じています。

やがて、私達は、おじいさんが待つ星へと戻りました。

フェアリーや精霊たちは、どこに来たのかと涙ながらに外の様子を見ていますが、まるで荒れはてた残骸のような星の姿をみて、すぐにフェニックス号の中に戻り、涙を流し続けています。

「皆さん、この星は、かつて皆さんが住んでいた星です。

確かに、他の星から来た人達によって荒らされ、破壊しつくされていますが、皆さんの中には、夢と希望が残っています。

もし皆さんが、この星を、再び美しい星にしたいと思うなら、そのパワーをすべて私に預けてください。

皆さんの、真剣な願いと愛があれば、この星は再び輝き始め、皆さんはここで再び楽しく暮らすことができます。」

フェアリーや精霊たちは、船の窓から外をのぞきながら、私が言ったことが信じられないという顔をしています。

すると一人のホビットが前に出てきます。

「僕たちは、TAKESHI さんの言うことを信じてやってみます。

TAKESHI さんは、今までたくさんの星を救い再生してきた経験を持つ人なので、きっとできると思います。」

おそらく、フェニックス号の中にいたホビット達と話をして、私達の事を聞いたのかもしれませんが。

数名のホビット達が、立ち上がります。

その姿を見て、フェアリーや精霊たちも、少しずつ泣き止み明るい顔を見せ始めました。

「私達にできることがあるならば、私達は何でもします。

何をすればよいか教えてください。私達を助けてください。」

フェアリーの一人が、涙ながらに訴えてきます。

風の精霊や森の精霊は、すでに気持ちが決まったようです。

フェニックス号から降りて、悲しみを拭い去るように、星の様子を見えています。

私達はフェニックス号を降り、比較的なだらかな場所に立ちます。

私は、星の創造を行う女神達やマスターA と呼ばれる宇宙の創造に関わるサポートを行うメンバー達から作ってもらった「ゴールド・ボックス」を準備します。

このゴールド・ボックスは、創造主たちの意向によって作られたもので、まだ生まれたばかりの星や荒廃してしまった星の自然環境を整え、叡智ある生命達が生活できる程度の自然環境にする事ができる魔法の箱なのです。

それも、何億年とかかる歴史を本当に数時間で行ってしまう環境を進化させるためのすごい魔法です。

私は、フェアリーや精霊たちホビット達が見ている前で、皆さんに共に祈ることをお願いして、ゴールド・ボックスを開きます。

箱の中から、様々な光が飛び出して、星の中へ広がっていきます。

すると、荒れ果てた土地の上に優しい光と雨が降り注ぎます。

雨によってでこぼこしていた場所は、少しずつ形を整えていきます。

光が降り注がれると、大地は優しい色の光をまとい、そこから植物達が芽生えてきます。

黒くよどんでいた川や海の水も流れ始め、透明感がある美しい水へと変わっていきます。

やがて水の中に小さな生命体たちが動き始めます。

その様子を見ていたフェアリーや精霊たちは、信じられないといわんばかりに歓声を上げます。

自然界の精霊たちは、ゴールド・ボックスの仕事を手伝うために、星の各地へと飛び立っていきました。

更に光は、様々な色に姿を変え、星の地表を多い尽くします。

まず小さな植物達による草原が出来上がり、そこから背の高い樹木が数本育ち始めます。

美しい花や花の周りを飛び交う虫なども現れてきました。

やがて樹木たちはさらにたくさん育ち、森が生まれてきます。

森の中に美しい湖も生まれ、川が流れ始めます。

湖や川の中には、魚たちも生まれ始めたようです。

川はさらに流れ、大きな海へと続きます。

今度は森の中で生活していた動物達が、喜んで森の中に帰っていきます。

彼らは、元に戻ってきた環境の中で、また楽しく暮らして生きる事を喜んでいます。

そしてフェアリー達が、私に向かって語りかけてきます。

「あなたはなんてすばらしい魔法使いなんでしょう。

私達の命を救ってくれただけでなく、私達に希望と喜びを与えてくれました。

私達は、この星を今まで以上に美しく素晴らしいものにします。

あなた達のためにも、この星に生きるすべての生命達のためにも決して過ちは繰り返しません。」

フェアリー達はそういと、自分たちの顔を私の頬につけ、感謝の言葉を伝えて、一人一人森の中に消えていきました。

これから彼女たちは、沢山の植物や動物達の世話をしながら楽しい毎日を送っていく事でしょう。

PART4 フェアリーの星のクリスタル・ドーム

私達にはもう一つ大切な仕事があります。

それはこの星の生命を支える星の女神を、この星の神聖なクリスタル・ドームと呼ばれる場所に連れていく事です。

クリスタル・ドームは、星の地下にあり、まるで鍾乳洞のような姿をしています。

そこは、星にとって最も神聖な場所であり、星の生命を支えるクリスタルとそれを守る女神がいる場所なのです。

私達は、女神は救出したものの神聖なるクリスタルは運び出すことができませんでしたので、クリスタルがどのようになっているか心配です。

私達がクリスタル・ドームに入ると、やはりそこも活気がなくクリスタルも黒ずんでいます。

しかし、ゴールド・ボックスが開かれることにより、今までの黒ずんだクリスタルの横に、小さな子供のようなクリスタルが生まれています。

星の女神が、すぐに駆け寄り、その小さなクリスタルを手に取り、自分の頬に摺り寄せます。

まるで自分の子供に出会ったかのような思いが、女神から伝わってきます。

「女神よ、素敵なクリスタルが生まれてきましたね。

それではどうしましょうか、この黒ずんだクリスタルをきれいにすることもできますが・・・」

「TAKESHI さん、ありがとうございます。

もし今までこの星の生命を守ってくれたクリスタルが元に戻せるなら、どうかお願いします。」

私は、愛の女神と太陽神アメンラーの光をこのクリスタルの中に呼び込みます。

するとクリスタルの黒い汚れが少しずつはぎとられていきます。

そしてマスター達の光が、クリスタルの中に届き始めると、クリスタルは、その内側から美しい明りを灯しはじめます。

クリスタルの中心から、柔らかい光が周りに広がっていきます。

星の女神が顔を上げ、頬を赤らめ、喜びの表情を見せてくれます。

私は、自分のハートの中から創造主の神聖なエネルギーをたたえたオリハルコンと呼ばれる光の石を取り出し、そのクリスタルの中に入れます。

その瞬間、クリスタル・ドームは黄金色の光に包まれ、さらにその光は地表へとあふれていきます。

私は、この星の再生を終わると、今日のアチューメントのマスターであるゴッド・オリジンを呼び出します。
「ゴッド・オリジンよ、今日はとても長いアチューメントになり、星の再生まで行うこととなりましたが、今日のこの出来事は、私達の活動と何か関係があるのですか。」

ゴッド・オリジンはにっこりとほほ笑むと

「TAKESHI さんももちろんですよ。

この星の再生がないことには、私達の活動は先に進まないのです。」

「それはどういうことですか、この星には何か大きな秘密が隠されているのですか。」

「もちろんです。ここをごらんください。」

オリジンが指さした先には2枚の扉があります。

「TAKESHI さん、昨日あなたがシャンバラで見た通路はこの星につながっているのです。

そしてこの星から、オリオン星雲とアンドロメダ銀河の遺伝子研究所のある場所へ、この扉を通していく事ができます。

つまりこの星の再生がないことには、オリオンとアンドロメダ銀河の特別な次元に入ることもできないし、そこにある特別な遺伝子ラボに行ってライトコードを手に入れることができないということです。」

「そのために、私達は時を超えて、この星の過去に戻り、フェアリーや女神を連れて戻ってきたのですか。これも全て、皆さんの計画の一部だったということなんですね。」

オリジンは、にっこりとうなずきます。

「しかし、TAKESHI さん、もう一つ問題があるのです。

この扉の先の通路は、長い間使用されなかったために、壊れています。

このままでは、この通路を誰も通ることができません。」

「それは、困ります。

私がここまで来て、星の再生までしたのに、通れなくては意味がない。」

「もちろんです。この通路を再度開くために、シャンバラのドラゴンの力が必要なのです。」

私達は、見事にマスター達の計画にはまったようです。

しかし、この星が再生し、フェアリー達が元気になった事で、今日のアチューメントの相手である奈津子さんは自分のスピリットの中にある大きな悲しみと苦しみを乗り越えることができたようです。

私達は、今日越えなければならない障害を越えたようです。

次は、シャンバラのドラゴンが、この光の通路を回復させる時を待って、アンドロメダ銀河とオリオン星雲に入っていく事となります。

第7章 脳神経を活性化するアンドロメダ・コード

PART1 アンドロメダ銀河の孤独な遺伝子ラボ

私達は、2015年の3月初旬に行われた星のツアーの時に先日助けた星を通りぬけてアンドロメダ銀河の特別な次元へ入ることとなりました。

シャンバラの世界に封印されていたドラゴンも、暁のドラゴンとして生まれ変わり、特別な次元への光の道を作ってくれました。

暁のドラゴンは、とても礼儀正しくて、私達が来ることを楽しみに待っていてくれました。

私達はシャンバラから、光の通路を抜けて、フェアリーの星にたどり着くと、そこから2つある扉の中で、アンドロメダ銀河の遺伝子研究所につながる通路をフェニックス号に乗って進みます。

今日は、アンドロメダ銀河の事について詳しいグレート・イエスが私達を案内してくれることとなりました。

私達がついた先にあるアンドロメダ銀河の遺伝子ラボは、まるでダイヤモンドでできた神殿のようにキラキラと輝いています。

中央にも、ダイヤモンドのような特別な光を放つ巨大なクリスタルが有り、神殿そのものがダイヤモンドのような素材でできているようです。

私達が来ることを知って女神のようなマスター達が待っています。

「皆さん、よくこのラボに来てくださいました。

本当にありがとうございます。

私達は、あなた方が必ず光の通路を復活させてきてくださると信じておりました。

私達の願いが、皆さんに届いて本当にうれしく思います。」

女神は、目に涙を浮かべるかのような表情で私達を迎えてくれています。

おそらく遺伝子ラボにつながる通路が破壊されて、彼女たちは長い時間を孤独のままにすごしていたのでしよう。

「偉大なる女神よ、涙を拭いてください。

私達は、シャンバラのドラゴンやフェアリーの星たちの問題を解決して皆さんの元にやってきました。

これも偉大なる創造主エンソフの計らいです。

共に偉大なる創造主に感謝の言葉を述べましょう。

しかし、皆さんは、本当に長い間、孤独の中で過ごしてきたのではないですか。」

女神達は創造主エンソフの元に感謝の言葉をささげています。

「私達は、かつては他の星々の人達と交流しながら遺伝子に関わる研究を進めていたのですが、私達の通路となっていた星が突然荒廃してしまい、その通路が使えなくなりました。

その星は、とても豊かで自然あふれる星だったので、私達もその星を良く訪ねましたしその星を通してオリオン星雲や他の星々にも行く事ができたのです。

そしてお互いの研究の成果を持ち寄り、素晴らしい遺伝子を作り上げていました。

しかし、その星がほかの星から来た人達によって荒らされてしまい、多くのフェアリー達がいなくなってしまうのです。

その為に、星の次元が落ちてしまい、私達と他の星や世界をつなぐ通路が壊れてしまいました。

私達は、この研究所から外に出ることもできずに、孤独の中で自分たちの研究を進めていたのです。」

「私達も、この宇宙をより良いものにするために、私達地球人が更なる進化を行いたいと思っています。

その為に皆さん方の研究が必要なのです。

私達は、多くのマスター達から、アンドロメダ銀河の遺伝子ラボが持つ特殊なライトコードを手に入れるように言われてここにやってきたのです。」

PART2 脳神経を活性化するアンドロメダ・コード

遺伝子ラボの女神達は、私達に微笑むと、このラボの技術者たちを呼び寄せます。

「この遺伝子ラボで研究している遺伝子は、人々の脳神経に関わる遺伝子です。

皆さんは、これからますます高次の世界からもたらされる情報やエネルギーを受け取っていく事となりますが、今の皆さんの脳神経の構造では、それらの情報やエネルギーをしっかりと受け止める事は不可能です。それは皆さんの脳神経のシステムがまだ未熟だからです。

そして、皆さんがこれから身に着けようとしているライトコードは、とても高次で複雑です。

皆さんが理解できないような働きや情報を持っており、それを皆さんが身に着けることで、皆さんの能力や資質を飛躍的に高めることができます。

しかし、そこには大きな問題があります。」

私達は、女神達が伝えてくれる言葉に集中しています。

「脳神経は、今まで皆さんが生活したり、行動したりするには、十分な程度の脳が活性化されていますが、それは脳本来の働きでいえば、ほんの小さな部分でしかありません。

しかし、現在皆さんが行っていることを可能にするためには、さらに脳の働きを活性化して、そのパワーを引き出さなければならないのです。

そして高次の世界から受け取るエネルギーや情報を、この物理的な世界で具現化していくための能力を高めなければなりません。

このライトコードは、そのための能力を高めます。

皆さんの脳の中で眠っている部分を目覚めさせ、宇宙のエネルギーを物質世界に具現化していくための力が発揮できるようにしなければなりません。

そしてもう一つ、皆さんが太陽種族を目指して努力なさっていることもよく知っていますが、このアンドロメダ・コードなくしては、その実現は不可能です。

通常の地球人には、現在皆さんが集めている様々なライトコードを結び付け、その能力を統合する機能やその機能を脳神経とつなげてコントロールするための働きがありません。

様々な星を渡り歩いてきた人達の脳神経と遺伝子構造の中には、そのような働きも含まれていますが、地球に住む一般の人達は、そのようなシステムを持ち合わせていないのです。

その為に、このアンドロメダ・コードが必要になってきます。
勿論、アンドロメダ・コードはこのままでは使用できません。」

私達は、「このままでは使用できない。」という言葉に、驚いています。

女神は、にっこりと笑うと

「TAKESHI さん、心配しないでください。

この遺伝子コードは、受け取るだけですぐに脳の多くの場所を活性化して、その働きを高めるわけではないのですが、皆さんのスピリットの上昇につれて、活性化されてくる脳の部分も増えてきます。

そして、一つだけお願いがあります。

こ私達の遺伝子ラボとアルクツールズのラボをつないでください。

アルクツールズのラボに、このアンドロメダのライトコードをサポートするコードがあるのです。

私達は、そのコードを使用して、地球の人達がこのコードを使えるように改良したいと思っています。」

「女神よ、良くわかりました。

それではまず、私達の遺伝子ラボとこの場所をつなぎましょう。

私達のラボに、皆さんが来てくださると、私達のラボから、様々な星のラボへといく事ができますよ。」

「TAKESHI さん、本当にありがとうございます。

それでは、そのようにさせていただきます。」

私は、この遺伝子ラボの上で待っていた暁のドラゴンにお願いして、このラボと私達のラボをつなぐ光の道を創ってもらいます。

暁のドラゴンは、私達のドラゴン達を引き連れて、お急ぎで光の道を創り始めます。

しばらく、アンドロメダ銀河の遺伝子ラボを見て回りますが、私はふと気づいたことがあります。

「女神よ、もう一つ教えていただきたいのですが、このラボそのものが特殊な鉱物によって作られたダイヤモンド構造になっていませんか。

ここにも、貴重なダイヤモンド構造の遺伝子ベースがありますか。」

「TAKESHI さん、よくお気づきになりましたね。

勿論、ダイヤモンド構造の遺伝子ベースがありますが、天の川銀河の人達には、少し合わないかもしれませんので、皆さんで改良されてくださいね。」

女神のよこにいたラボの技術者が、私に特殊な鉱物を渡してくれました。

私達が会話をしている間に、光の通路ができたようです。

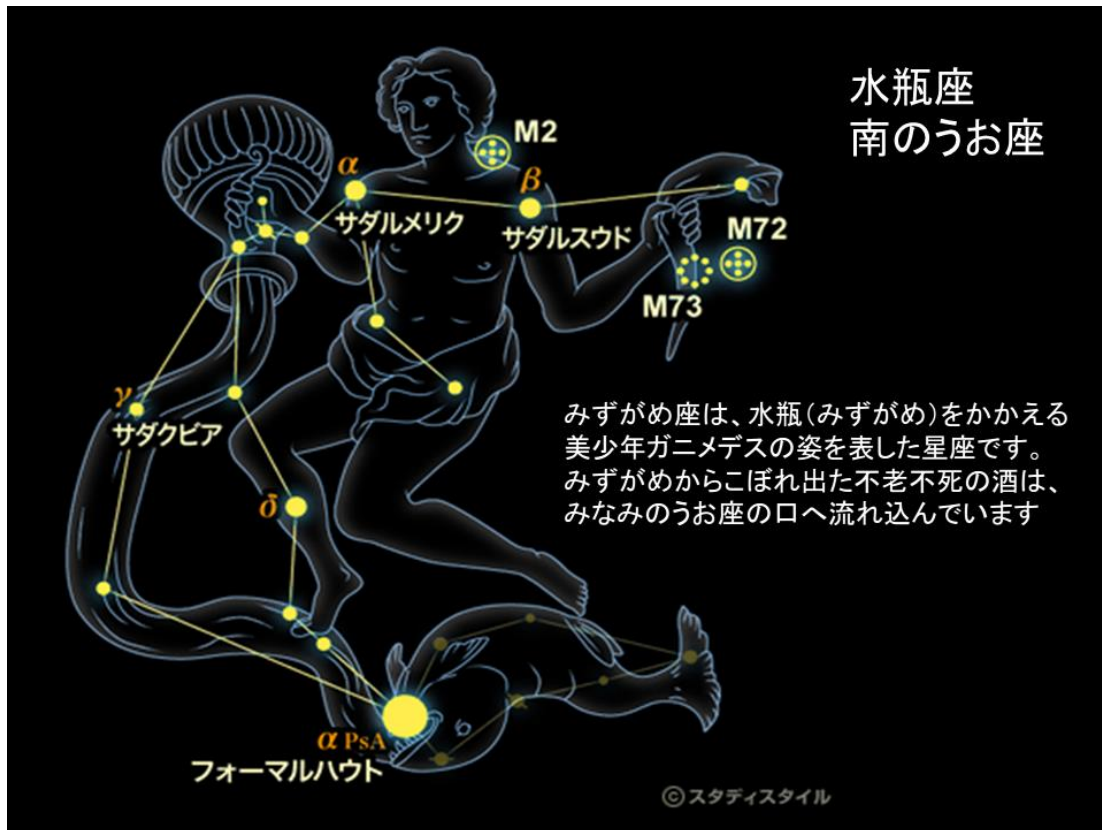
私達は、アンドロメダ銀河の遺伝子ラボのメンバーを伴って、私達の遺伝子ラボへと戻りました。

私達の遺伝子ラボを見て、アンドロメダのラボの科学者たちは大喜びです。

最新の機械や技術がそこには集められていて、研究が飛躍的に発展しそうです。

アンドロメダの研究者たちは、ゴッド・オリジンから、研究室を1部屋もらったようです。

しばらくすると、私達のラボにある光の通路から、アルクツールズへとむかったようです。



PART1 みずがめ座の水のドラゴンの秘密

私達は、ドラゴンの聖地に入り、マスタードラゴン・コードを手に入れることにより、もう一つのドラゴンの物語が始まります。

それは、メンバーの一人、美緒さんにドラゴン達がメッセージを送ってきたことから始まりました。彼女の元に、しばらく前から、みずがめ座にいるドラゴンを助けに来てほしいというメッセージが届けるようになってきました。

私達は、彼女が星のツアーに参加できる日を選んで、みずがめ座に行く事にしました。

みずがめ座は、以前星のツアーで「天の川銀河の生命の水」と呼ばれるシリーズにおいて探索したことがあります。

アフロデティとフォーマルハウト星にいるみずがめ座の創造主、そして個性豊かなマスター達によって守られる生命の水は、この天の川銀河にとってなくてはならないものでした。

現在は、ここの生命の水を盗みに来る者達もだいぶ少なくなりましたが、私達が初めてこの場所を訪れた時は、多くの者達がここに流れている「生命の水」の奪い合いをしていました。

私達は、南のうお座のフォーマルハウト星に入り、このみずがめ座や南のうお座を守護する創造主をお呼びしました。

彼とは、以前共に協力しながら、「生命の水」の働きを正常に戻したことがあるので、私達の事はよく知っています。

彼はまだ若い男性のような姿で、私達の前に現れます。

「TAKESHI さん、そろそろ来てくださる頃だと思っていました。

皆さんの活躍は、仲間たちの間でも評判です。

これから皆さんが、どのような世界を創っていつてくださるのか、私達も楽しみにしています。」

「フォーマルハウトの創造主よ、ありがとうございます。

私達の活動も皆さんの協力なくしては進めることができません。

どうかよろしく願い足します。」

私は、彼に向かって丁寧に挨拶します。

彼の横には、女神アフロデティやマスター達も現れてきて、嬉しそうにしています。

「TAKESHI さん、皆さんが来た理由はわかっています。

水瓶の中にある水のドラゴンの事ですね。」

「もちろんそうです、私達のメンバーが、そのドラゴンからメッセージをうけとったようなので気になってきてみました。」

「実は、そのことですが、皆さんが現在、地球や天の川銀河の進化のために大切なお仕事をなさっていますが、そのことと深く関係していることなのです。

この天の川銀河を守護するドラゴン達はたくさんいますが、主に 4 大エレメントを司るドラゴンの一つが、このみずがめ座の水瓶の中に封印されています。

封印といっても、その水のドラゴンになにか問題がある訳でなく、水のドラゴンの持つパワーが、とても大きくてそのパワーが発揮されると、エネルギーのバランスが大きく変わってしまうので、その力を封じ込めているということなのです。」

「創造主よ、その力はいったいどのような力なのですか。」

「それは、とても複雑な働きをします。

水のドラゴンの働きは、ネガティブなエネルギーを浄化して創造的なエネルギーに変換していきます。

皆さんの個人的なレベルでいえば、皆さんの不要な感情やネガティブな思いを喜びに満ち溢れたものとしてくれますし、皆さんがカルマやトラウマと思っているエネルギーも創造的なエネルギーに変えてくれます。そして宇宙レベルでも、宇宙の進化や分離・統合の過程で生まれたネガティブなエネルギーを創造のための光に変えていく事ができるのです。

皆さんや天の川銀河のマスター達の働きによって、この宇宙はどんどん進化してはいますが、やはりその過程で、古い伝統的なエネルギーがあぶりだされ、解放されていくことを願っているようです。」

創造主はそういうと、空の一角を指さします。

そこには黒いオーロラのような闇の光が存在しています。

「ここから見えている闇の空間もその一つです。

天の川銀河が高次の世界へ移り変わるにつれドラゴン達の働きもどんどん新しくならなければなりません。その為に、蛇が脱皮するようにドラゴン達も新しく生まれ変わっていくのです。

また、古いエネルギーに固執したままのドラゴン達にとって、現在のエネルギーは、とても重たいものとな

ってしまいます。

そこで、新たな時代を創ることができる水のドラゴンを解き放ち、この宇宙の滞っているエネルギーを解き放ち、新たなエネルギーの流れを作らなければなりません。」

「そういう理由があったのですね、創造主よ、教えていただいて大変ありがとうございます。

それでは、私達は水瓶の方に行ってみたいと思います。」

「TAKESHI さん、待ってください。

水瓶の中にいる水のドラゴンを解放する前に、やらなければならないことがあります。

それは水のドラゴンのエネルギーを調整するために火のドラゴンの力が必要なのです。

火のドラゴンを目覚めさせ、まず火のドラゴンのパワーを解放してください。」

「わかりました、それで火のドラゴンは、どこにいるのですか。

おそらく水瓶の近くにあるサダルスウド星で、皆さん事を待っていると思いますよ。」

PART2 新しい時代の火のドラゴン

私達は、フェニックス号でみずがめ座のサダルスウド星へと向かいます。

この星には、みずがめ座の女神のリーダーとなる女神がいて、この宇宙のアカシックレコードを管理しています。

また、このユニバース全体を統括する創造主からの「生命の水」がサダルスウド星の右奥の領域からこの天の川銀河に流れ込んできていますので、そのエネルギーを最初に導いていくのがこのサダルスウドの星なのです。

偉大な宇宙の創造主からもたらされた「生命の水」のエネルギーは、サダルスウド星からサダルメリク星へと入り、みずがめ座の三ツ星によって形成される水瓶の中に入ります。

ここでスピリチュアルな生命エネルギーが、物質エネルギーに変換されて、水瓶の水としてザクビア星を通り、南のうお座の口元にあるフォーマルハウト星に送られるのです。

ここでエネルギーは一度浄化され、水の通路を通ってうお座からくじら座、そしてうみへび座やエリダヌス座という水に関係する星座の中を流れて天の川銀河に広がっていきます。

つまりこのみずがめ座は、私達の天の川銀河にしてみれば、多くの星々や生命達を育てるために必要不可欠なエネルギーを創っている事になりますので、その場所にいるドラゴンの資質や働きによって、そこから流れてくる生命のエネルギーの質が大きく変わる事となるのです。

今回、今までとは比べ物にならないほど大きくそして高次のエネルギーを扱うことができるドラゴンが、目覚めるということは、これから天の川銀河に流れ出す生命の水が今まで以上に素晴らしいものと変わり、天の川銀河の星々や生命達の進化と成長を大きく助けていく事となります。

また目に見えない創造主の世界から、スピリチュアルレベルで降りてきた生命の水は、物質化を行う水瓶の中に入る前に、サダルスウド星の「火のドラゴン」の前を通ります。

火のドラゴンは、エネルギーの活性化を行い、生命の水が物質化する過程を助けます。

火のドラゴンの働きによって、水のドラゴンが活躍するための場所が整えられ、水のドラゴンの働きが、より効率的に行われるようです。

サダルスウド星の女神が、私達に教えてくれます。

「この火のドラゴンは、常に宇宙の深奥から流れてくる生命の水を見つめてきました。

水の働きを活性化するための火の精霊として、大切な役割を果たすことでしょう。

水の精霊と火の精霊が一つになることで、これからこの宇宙のエネルギーもさらに進化し統合が行われていく事でしょう。

どうか、この火のドラゴンと水のドラゴンをこのみずがめ座だけでなく、地球や他の星々ともしっかりとつなげてあげてください。」

女神は、私達を火のドラゴンの元に導いてくれました。

とても大きな火山のようなビジョンが見えてきます。

火のドラゴンが、私達の前に深紅に燃え上がるような体を見せてくれます。

「このドラゴンは、宇宙のエネルギーをより高次元エネルギーに変換するだけでなく、皆さんにとっても大切な働きをします。

それは、皆さんのカルマやトラウマを解放するに当たり、そのカルマのエネルギーが暴走してあなた方を傷つけることを防ぎ、より学び多きものとして安全に開放していきます。

現在、地球は、様々なエネルギーが渾沌として存在し、あなた方の成長や進化の妨げになっています。

しかし、火のドラゴンは、あなた方の魂の中に輝きをもたらし、カルマや様々なエネルギーを、愛と共に癒し、解放していく事でしょう。

あなた方は、地球に混在する多くのエネルギーを浄化し障害を乗り越えていく事ができるのです。

そして水のドラゴンが、さらにあなた方をサポートすることにより、皆さんは、より高次元エネルギーとひとつになり、新たな進化を遂げることでしょう。

それはあなた方だけでなく、この地球と宇宙にも同じように起こることなのです。

さあ、勇気ある者達よ、火のドラゴンと共に、水のドラゴンの元に行きなさい。」

大きなパワーを秘めた火のドラゴンが大きく吠えます。

私は、この火のドラゴンと水のドラゴンを守護するために、ドラゴンの聖地から、光のドラゴン、虹のドラゴン、そして変容のドラゴンを呼びます。

私は、火のドラゴンにこの3大ドラゴンの光を分かち合い、火のドラゴンを更に強力なものとしていきます。そして、水のドラゴンよりも一足先に地球へとその光を送ります。

PART3 水のドラゴンの目覚め

私達は、サダルスウド星の女神に別れを告げ、水瓶の元に移動します。

みずがめ座のマスターであるガニメデウスも同行しているようです。

私達は、火のドラゴンや他のドラゴン達を引き連れて水瓶の中に入りますが、中は真っ暗で様子がおかしい

ようです。

私は3大ドラゴンと火のドラゴンにお願いして、この場所のエネルギーを高めてもらいます。

すると水瓶の奥の空間に、静かに目を閉じて横たわっているドラゴンがいます。

光のドラゴン達が水のドラゴンの周りを飛び回り金粉のような光を、水のドラゴンに降り注いでいます。水のドラゴンがゆっくりと薄目を開けて、周りを見ているようですが、意識はまだはっきりとはしていないようです。

美緒さんの心の中に言葉が響いてきているようです、彼女が伝えてきます。

「水のドラゴンは、この地球がアクエリアスの時代に入ることによって、その大きな力を発揮することができるようになります。

皆さんも、みずがめ座の時代の扉が開かれることにより、さらに高い意識へと開かれていく事になります。そしてみずがめ座の時代から、更なる進化へと向けて、宇宙は動き始めました。

水のドラゴンは、アクエリアスの時代から更なる進化の世界へと私達を導きます。

それは、私達一人一人が光に目覚める時代です。

火のドラゴンや水のドラゴン、そしてあなた方の意識が一つになって新たな時代が幕を開きます。

水のドラゴンは、愛のドラゴンとして、愛のエネルギーを循環させていきます。

私達は、このエネルギーを使用して、この宇宙の次元を更に上げる時を待っていました。」

私達「宇宙の光」のメンバーは心を一つにして祈ります。

火のドラゴンや虹のドラゴン達のドラゴンの紋章によって、ドラゴンが美しい光に取りかこまれていきます。巨大なルチル・クリスタルを手に持った水のドラゴンの姿がはっきりと表れてきました。

ルチル・クリスタルには、クリスタル種族のマスターがついていて、私達にドラゴンと共に、この宇宙に愛と豊かさをもたらすものであることを教えてくれます。

私は、ドラゴンの近くに歩み寄り、彼の遺伝子構造を開きます。

そして巨大な遺伝子構造を見ながら、活性化されていない遺伝子を次々と活性化していきます。

私は、マスターオリジンを呼び出し、マスタードラゴン・コードの準備をしてもらいます。

やがて手元に大きなマスタードラゴン・コードが現れましたので、それを水のドラゴンの中に入れ、他の遺伝子とつなぎ合わせていきます。

水のドラゴンの遺伝子たちがパワフルな光で輝き始めると、ドラゴンの体に光が満ち溢れ躍動し始めます。

私は遺伝子コードを閉じ、水のドラゴンに、ドラゴンの聖地の守護者である黄金のドラゴンと白銀のドラゴンに光を呼び込みつなげていきます。

水のドラゴンは大きく身震いしたかと思うと、火のドラゴンと共に舞い上がります。

彼らは、お互いが絡み合うように美しい螺旋形を描きます。

まるで遺伝子のDNAがらせん状に絡み合っているように、彼らも新たな光の遺伝子を創造するように、絡み合いながら、空へと登っていきます。

2頭のドラゴンは、やがて一つの光となり、その光は放射線状に宇宙の中に広がっていきます。

私達は、水のドラゴンと火のドラゴンをはじめ5大ドラゴンの光を、しっかりと地球へとつないでいきます。そして、ユニバーサルパレスのマスター達によって、5大ドラゴンの光は天の川銀河にもつながれていきま

す。

5大ドラゴンの強力な光を見て、天の川銀河レベルのドラゴン達が集まってきたようです。

ドラゴン達は、5大ドラゴンによって生み出された光で、自らを更に進化させていくようです。

ドラゴン達は、歓喜の声を上げながら、天の川銀河の各地へとその光をつなげていきます。

PART4 ドラゴンによるカルマ解除の光

私達はこの時、この5大ドラゴンによって作られた光が、人間が持っているネガティブな感情やカルマのエネルギーの浄化と変容に大変役に立つということを知られました。

ドラゴン達が、私に伝えてきます。

「カルマは、痛みをもたらすのではなく愛と豊かさをあなたにもたらしめます。

あなたがカルマやネガティブな感情を恐れ憎むかぎり、カルマやネガティブな感情はあなたの元を離れず、あなたを悩ませ続けます。

しかしあなたが、カルマやネガティブな感情を乗り越えることに喜びを覚えるなら、カルマたちは、あなたの元からおのずから離れていくでしょう。

カルマは、もうあなたの元で何かをすべき事も、またあなたの元にいる必要もなくなったからです。

あなたは、カルマやネガティブな感情さえも、あなたの友とし、あなたの学びのための一つのステップにすることができるのです。

私達、ドラゴンの光は、それらのカルマの本質をあなたに示すとともに、カルマやネガティブな感情を乗り越えるためのパワーと叡智をあなたに授けます。

火のドラゴンは、皆さんがカルマによって受けた苦しみや悲しみのエネルギーを浄化していく事を助けるでしょう。

水のドラゴンは、カルマを学びに変えていくために、カルマの本質を伝える叡智を授けます。

あなたはその叡智によって、カルマやネガティブな感情を、喜びや楽しみの学びとすることができるのです。

光のドラゴンは、あなたの心と魂を一つに統合し、ワンネスである宇宙へとつなげていきます。

あなたが限りない叡智と愛の中にすでに存在しているということを知る事となるでしょう。

虹のドラゴンは、その美しい7色の光がまさに豊かさそのものであるように、皆さんの多彩な次元に存在する豊かさと愛を伝えてくれるでしょう。

そして変容のドラゴンは、あなたの中に起こるすべての統合と変化の過程を、より高次の世界から見守り守護します。」

私達は、5大ドラゴンによって作り出された光を体全身で受け止めていきます。

美緒さんは、5大ドラゴンによって放たれた光が体の中に浸透し、虹の粒子のように発散されていく様子が見えているようです。

特に美緒さんには、虹のドラゴンの姿がクローズアップされます。

そこから、前進するエネルギー、自分を取り囲み、優しく包み込むエネルギーに、美緒さんは酔いしれています。

私達は、やがて、この5大ドラゴン達に助けを借りて、カルマ解除のためのアチューメントを生み出すこととなるようです。